京城日報

（其一）

宮中拜賀

拜賀第一日

天皇、皇后兩陛下の文武百官の拜賀を受けさせらるゝ一日出御を元旦は例年の如く萬端御とゞこほりなく終らせらる

宮中二日祭

二日午前六時半からは一日祭に同じき御次第を以て賢所皇靈殿神殿の三殿で宮中二日祭の儀を行はせられた。殿の御御殿も前日の如く、神樂部の中を奏樂、酒饌、住吉、國栖など十盛の神饌を供し奉つて、九條掌典長祝詞を奏し、御例により 天皇陛下の御代拜を奉仕し同七時御儀は御終了した

拜賀第二日

宮中正月拜賀第二日 天皇陛下には元日同樣晴れの御服を召させられ午前十時半大元帥の御正裝にて秩父宮同妃兩殿下外各皇族殿下御後ろに扈從遊ばされ正殿に出御、玉座において

宮中席次第三階第二十八、乃至三十八の有爵者同夫人、勅二等、三等の外國人同夫人、に對し一々列立の拜賀をうけさせられ、同十一時より豐明殿に東西兩溜の間に列立の宮中席次第四階以下、衆議院議員以下高等官九等まで、門跡寺院の住職、勅任待遇、六等以上の外國人に對し、拜賀をうけさせられ同十一時半入御更に同日午後一時から四時までは正七位以下功六級七等以下奏任待遇等の參賀の人で二重橋は盛況が如き賑ひで、大宮御所も同樣參賀が引きも切らなかつた

朝鮮神宮の歲旦祭

朝鮮神宮では昨元旦午前九時から總督代理の今村內務局長はじめ朝鮮貴族總代、代官總代、武官總代、各道々民總代、京城府民總代、その他官民有志多數參列の上、中宗武により歲旦祭を執行し、新年の佳節を祝ひ、聖壽の無窮、國運の隆榮を祝禱した。

國際聯盟多年の宿望！
一般的軍縮會議開催
今秋十一月を期して
開催地を繞る各國の競爭

【ゼネバ卅一日發電】國際聯盟多年の宿望が叶つて一九三二年秋（多分十一月）を期し、聯盟主催一般軍縮會議が開催されることとなり、一月の聯盟理事會でその期日及開會地を正式に決定する筈であるが、會議參加國三十五ケ國以上の代表者及關係者は半年乃至八月に亘つて滯在する必要あるため、必然的の會議地と目されてゐたゼネバは宿泊設備その他の關係で不自由を感ぜらるゝに至り、目下左の數箇所が理事會へ提出せられて ある

一、ウインナ（但しこれは英國が遠過ぎると反對）
二、巴里（但しこれは獨逸、オーストリヤ等中央諸國が歷史的關係から反對）
三、ゼネバ湖畔の各都會に分宿、汽船で連絡を採らんとするもの
四、ブラッセル
五、西班牙のサンセバスチアン

右の內サンセバスチアン市有力で市有力者は暗中飛躍を續けてゐる

高松宮兩殿下五月御歸朝
米國御經由にて

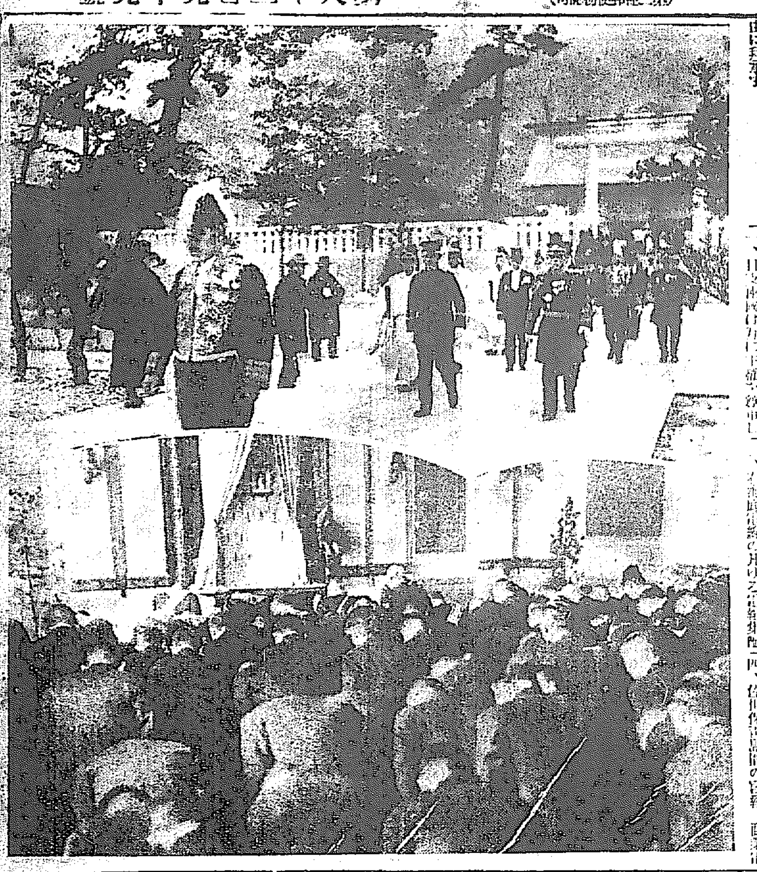
【東京電報】新年をアドリア海と歷史的傳說に富むブリオニー孤島にて迎へさせられた高松宮、同妃兩殿下には二月末乃至三月上旬御渡米、各地御巡遊の上四月三十日桑港御出港、五月十四日横濱入港の淺間丸にて御歸朝あらせらるゝ由に拜承す

卅一日假調印を了せる
日支電信新契約
佐世保青島間海底電線改訂
◇—正式調印は月末か來月上旬

【南京卅一日發電】本日調印を了せる佐世保青島線の新契約は關係院の手續きを經て正式調印さるゝもので正式調印の時期は一月末または二月上旬と見られる。新契約內容左の如し

一、日支兩國は先に締結せる佐世保青島間の海底電線は日支合辦とし其の有效期間を五年とす
二、兩國政府は本契約批准の日より佐世保青島間海底電信交通の權利を日支兩國以外の如何なる國、會社又は個人にも與へざるに同意す
三、右海底電線の凡ゆる電報集配權は本契約成立效力發生の日より青島に支那の、佐世保に日本の電信局を夫れ〴〵設置し、兩國より夫れ〴〵局長一名を任命し且つ兩國に日支兩國人若干名を使用して電信事務に當らしむ但し兩國の國體を毀損するか又は治安を紊す電報は扱ふを得ず
四、佐世保青島間の官報、商業電報新聞電報は總て料金を徵收し其の料金は日支兩國にて折半取得す
五、佐世保青島間電信事務及料金の細目に關しては別に實行細則を定む、右細則契約は本契約の有效期間中變更するを得ず
六、本契約滿期に際し中國側が改訂を欲する時は、該電線敷設に投下せる日本の資本を償還するものとす
七、本契約成立後該線における日本の既得權は完全に取消され、日支兩國の共同經營とす
八、本契約は兩國の批准完了を俟つて效力を發生するものとす
九、本契約は日支間の他の海底電線に適用又は準用するを得ず
十、日支兩國は該線の運用履行に關し第三國に依託辦理するを許さず

たゞ右新契約は大正十一年十二月調印せる山東還付細目協定中に規定されし事項と大差ないが唯青島電信局に使用する日本人は現在より若干減ぜられ、電報料金も現在よりやゝ高率となるもの如くである



◇寫眞◇【上】朝鮮神宮の歲旦祭 【下】朝鮮總督府の拜賀式

總督府拜賀式

總督府の新年拜賀式は總督、總監以下各部長參列し元旦午前十時五十分から第一會議室で在城外國領事館、同十一時廿分から有位有勳の本府職員、在城第一次所屬官署長勅任官、および同待遇者、朝鮮神宮々司、林業試驗場長、京城府尹、中樞院副議長、同顧問、參議、同十一時卅分から有位有勳者を除いた總督府判任官および同待遇者の順序をもつて目出たく行はれた

遞信局

遞信局においては恒例により各課代表同局會議室に參集し十一時に至り山本局長の新年の挨拶あり一同祝酒を酌んで退散した

專賣局

專賣局でも一日午前十時半から同會議室において松本局長以下參列新年拜賀式を舉行した

鐵道局

鐵道局においては恒例により元旦十時より會議室において局員全員參列、大村局長の新年の挨拶あり、これに局員代表として齋藤工務課長の答辭あり一同食堂にて祝酒を酌み、一同十時三十分退散した

京城府

京城府においては恒例により一日午前十時半より會議室に一同參集し、安藤府尹、職員一同御眞影を奉拜し、聖壽の萬歲を三唱し十一時一同退散した

本社來訪の兒玉朝鮮軍參謀長

六、七月頃から景氣は立直る
之れ以上惡くなりつこなし
米財界巨頭連の一九三一年景氣觀

【ニューヨーク卅日發電】不景氣は何時直るかとの問を提げ、歲晩の三十日アメリカ財界の大立物の意見を叩いたところ、何れも立場上景氣恢復時期の豫想言明は避けたがらも大體一九三一年に對しては樂觀的豫想をひらめかしてゐる。

ゼネラル・エレクトリク會社長ジー・スヲオープ氏は

何時回復するかは言へぬが、之れ以上惡くはなりつこない、多分良くなると思ふ

グッドイーア・タイア會社長並グッドイーア・ツェッペリン會社長ポール・リッチ・フイールド氏

きつと眼に見えて景氣が見直すと思ふ

ゼネラル・モータース會社長アルフレッド・スローン氏

景氣は人心の動き、人の動き次第で何うにも動くから徐々に豫測出來ぬ、良くなつてゆく徐々であらう

北米鐵道電力會社重役フランク・デーム氏は

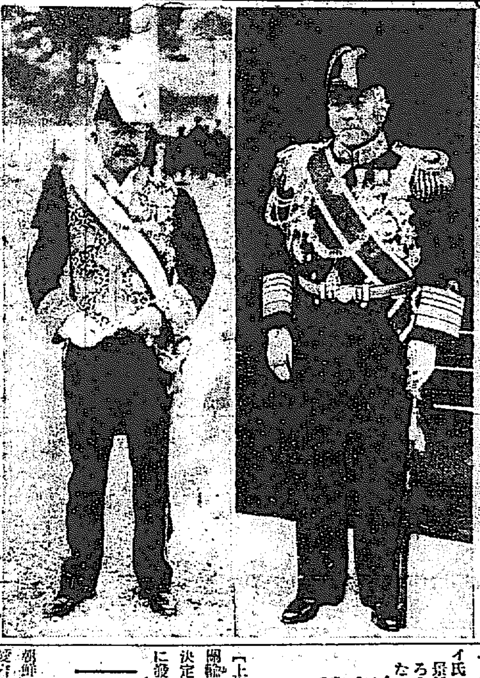
景氣は良くなつたらうが若し特別會でも召集されんか、不安人氣は一寸退散すまい、特別會さへなければ事業界は案外早く活氣づかう

ムーデイ投資家顧問會社長ムーデイ氏

景氣は六、七月頃から見直すだらうと思ふ、惡くなるとは思へない

新海關輸入稅稅則
一月一日より實施

【上海卅一日發電】國民政府新海關輸入稅則は一月一日より實施と決定し、本日海關告示を以て正式に發表された



◇—禮裝の齋藤總督（右）と兒玉總監（左）

初雪を見た東都の元旦
皇居を伏拜し明治神宮へ

【東京電報】元旦の東京は朝來非常の寒氣で曇り、漸く待ちこたへて居るといつた樣なありさまだつたが、宮城前はさすがに早朝より一般民は續々廣場に集まり、六年度の最初に先づ皇居を伏し拜んだ。それより參賀の爲め親任文武大官連が參內した。午前中漸くもちこたへた空はいよ〳〵たまりかねたか、午後二時頃からちらり〳〵と初雪を降らせ、午後三時頃はとう〳〵本降りとなり、曉までに六寸近くの積雪を見、都の人を非常に驚かせた。たゞ一日の明治神宮は深夜より參拜人引きもきらず、正午迄に參拜者二十萬を算したが、午後の降雪に御難題、『神風』を見んものと押寄せたものも澤山あつた

元始祭
あす朝鮮神宮で

朝鮮神宮では明三日午前十時から齋藤總督以下各總代および官民多數參列の上、元始祭の儀式を執行するが當日はモーニング禮服に紋付羽織袴以上の服裝の者は誰でも參列することが出來るが、希望者は當日時刻前に受付に名刺を差出されたしと

愛宕神宮の初の鎭火祭
四日行はれる

朝鮮における火の神樣、月尾島、愛宕神宮の初の鎭火祭は四日午前九時から午後三時まで執行されるが當日は本年中火災をまぬかれるため參拜者が多數に上るであらうから鎭火の御祈禱札希望者は、申込まれたいと（仁川）

來る五日の初乘會
參加者三百名を越える模樣

恒例初乘會は東、師騎、道の共同主催で五日舉行される。コースは騎兵隊を午前九時半出發、漢江里、孝昌、東大門、敦岩里、平山牧場に至り同所で休憩、東小門、鍾路通、府廳前、南大門を經て兵營に歸り、午後一時半から會食する筈であるが、地方官民の乘馬熱が盛んになつて來た折柄とて參加者は三百名を越ゆる模樣である

神宮參拜

（三十一日）總數九八一人▲內譯內地人五六九人▲朝鮮人二一人▲國際京城修養團三〇人▲前年度總數一四九二三人（一日）總數三七四四九九人▲內譯內地人二七二一七人▲朝鮮人三十七五人▲支那人四人▲歐米人三人▲團體步兵七八聯隊三中隊四九人同十一中隊九八人▲同機關銃隊一五四人▲同三中隊一三〇人▲同一中隊三〇人▲同七中隊一三〇人▲十中隊一一〇人六中隊一二〇人▲七九聯隊一中隊一三一人▲同一中隊一二〇人▲同三中隊九五人▲同機關銃隊八五人▲同三中隊二六人▲同五中隊四六人▲同野砲兵二中隊二九人▲同四中隊四六人▲憲兵隊々長以下二〇人▲二〇師團司令部一五人▲衞戍病院軍事以下二五人▲龍山步兵十中隊一〇九人▲京城郵便局五〇人▲京城修養團一〇〇人▲朝鮮總督府巡査講習生三〇〇人▲龍山二〇師團下士團三四人▲京城南大門通丁子屋青年訓練所五九人▲總督府山林課員九〇人▲前年度總數二六〇六四人

人

◇若菜信氏（國際通運仁川支店長）夫人逝去のため一日夜仁川發鄕里へ
◇山副寿氏（管通文社長）一日夜發西鮮地方へ旅行、六日頃歸城の豫定

あすの天氣（3）

高氣壓は南支那から朝鮮に擴がり、北海道方面の氣壓も又高くなり滿洲と日本海には少低氣壓がある、朝鮮の氣壓配置はやゝ不安定なる爲ほとんど全鮮に雪が降つたが、今朝はいづれも晴つてゐる、明日は曇り勝だが良い

豫報 曇一時晴
二 日正午零下 〇五（攝）
一 日最低零下 五度〇（攝）

明日は元始祭にて休刊

刺青傀儡話（ほりものくわいらいばなし）［171］
潮山長三 作　挿畫 河原塚龜太郎

渦卷く業火（十）

天を焦がす、火の手に向つて、高田應馬が驅けて行くと、彌次馬の流れも亦大したものだ。

『はら〳〵〳〵い』

と掛け聲も勇ましい。應馬もう斯うなると、有頂天になる方だ。

やがて、やつて來た長州屋の近く、果して火事は長州屋だ。大混雜で、ひしめき返つてゐる。

『あゝ、長州屋が燒けるか、倉はどうだ』

泥棒根性で、すぐ倉の方へ向かつて行く。當分をつれて、人に聞き當りながら裡手へ曲つて見ると、倉が二ツとも燃え上つてゐる。

『おゝ、藏が燃える。金がとろける。あゝ惜い事だ』

そこの塀は無殘にも崩されて庭の中が丸見に、座敷も二階もあらかた燒け崩きて、今では柱ばかりが赤くいぶつてゐる。

これに對して倉の火の手は猛烈だ。火消しは全力を舉げて倉にかかつてゐる樣子。

だが、不思議なことには、この一廓、彌次馬がゐない事だ。少しばかりゐるにはゐても、背顏へ上つて火の手を見上げてゐる。

一方時親逮捕の爲め、燃える家の中を家さがしてゐた與力の一行も之れまでと失望して、崩れ塀の小脇から、こつそり〳〵と外へ出たが、同心で一人、通りすがりに高田應馬の顏をちらりと見た。

『ヤッ！』

『ヤッ！』

双方一時に聲を上げた。捕方出立ちの物々しい侍に穴の明くほど睨められた應馬、本能的に驚れの叫びを上げたのだが、同心の方では、その顏に覺えがある。役所に來てゐる日本左衛門人相書のいろ〳〵異つた中の一ツに、この浪人者がぴつたりと似てゐるのだ。

同心は躍り上つた。

『やや、日本左衛門、御用だ』

『しまつた』

應馬がずらりと拔いた刀の光、火事の明りを映して凄いが、さあ火事場の捕り物、捕方は大勢、賊は無勢だ。

應馬は二三人の乾分と共に忽ち捕方にをつ取り圍まれ、どうにもならなく見れた所、これとて腕はなか〳〵出來るから、一方を切り開いて火事場の庭へ飛び込んだ。

火の粉と煙との雪崩れる中にしばらく鬪がたけれど、捕方は梯子捕りと言ふ手で徐々とやつてゐる。何丁かの梯子で身を挾まれてしまつた。

『捕まつた〳〵、日本左衛門を捕まつた』

『しまつた！』

高田應馬は高手小手に縛られ無念の齒嚙みをして、火の手を上げてゐる倉を、恐々しさうに睨んだ。

『火事が怨みだ。火事さへなかつたら捕者は捕へられるのではなかつた。』

『歩め〳〵』

役人がわめくやうにいつて、繩尻で背中を引つ叩くから、のそりと歩き出した。

と、その時、馬蹄の響が近づいて來て、高張を先に、馬上火事裝束の侍がやつて來た。これは誰あらう大岡越前守の出役である。

と、捕方の中から與力が馬前へ進んで、

『御奉行樣。時節遂に到來いたしました。その代りこれなる日本左衛門を只今召し取りましてございまする』

越前守、頷いて火事明りの中に縛られてゐる、高田應馬を見た。

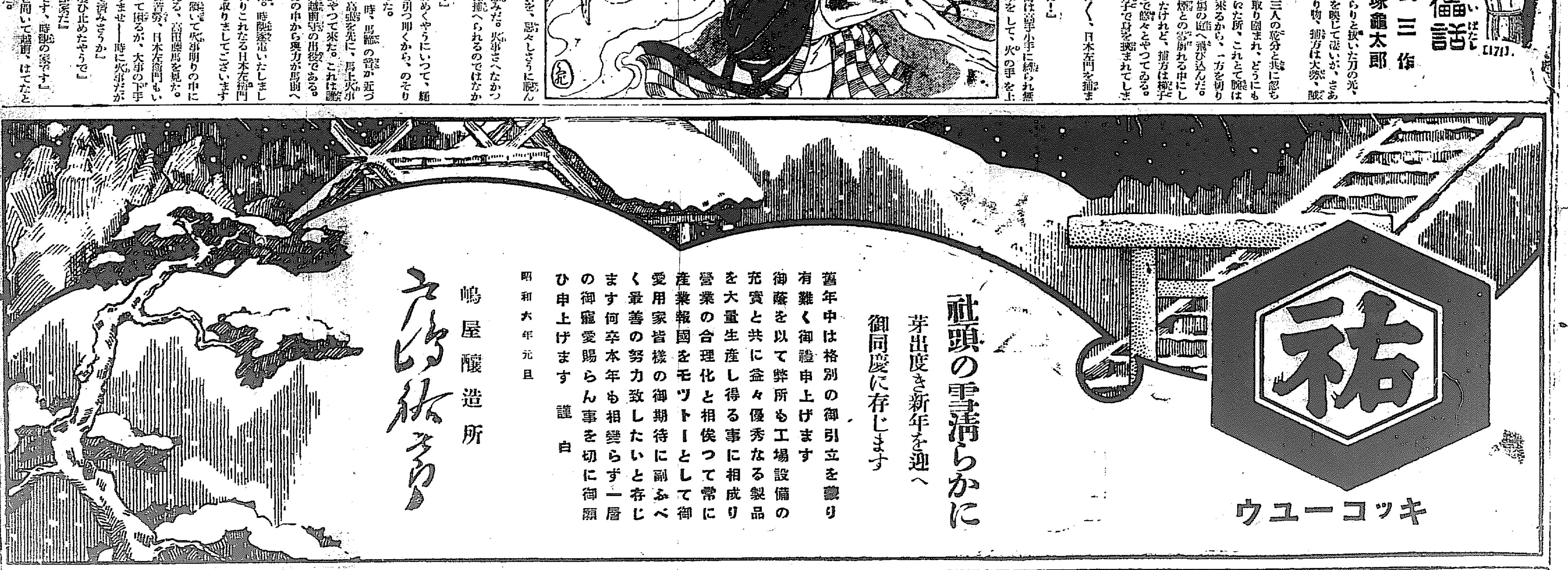
『いや、御苦勞、日本左衛門もいろ〳〵あつて困るが、大事の下手人早く送りませ——時に火事だが此所一軒で濟みさうか』

『うまく喰ひ止めたやうで』

『何といふ家だ』

『長州屋です、時鍋の家です』

長州屋と聞いて越前、はてなと首を振つた。



各大臣の年頭の辭

國交益親善を加へ共同の理想に邁進

外務大臣 男爵 幣原喜重郎

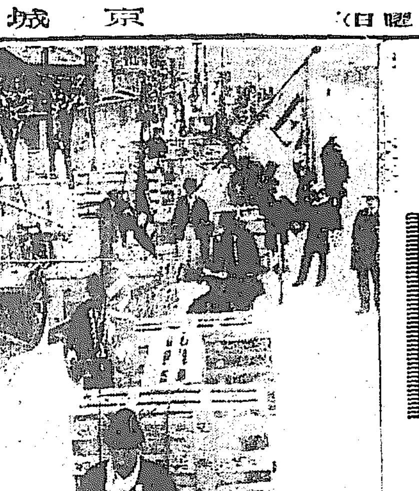
ここに昭和六年の新春を迎へて旣往一ヶ年を回顧しまするに、我國際關係が極めて順調なる發展を遂げ、我國と友邦諸國との國交益々親善を加へた事は私の甚だ欣快とする所であります。殊に昨年中において、世界軍縮の大事業は著しく促進せられたのでありまして、昭和五年こそは世界の平和と人類の福祉を念とする人々にとりて永く記憶さるべき年となつたのであります。

＝御承知＝の如く昨年始め日、英、米、佛、伊の五大海軍國代表は英國政府の招請によりロンドンに會合し、海軍々備制限問題、就中昭和二年壽府會議において不成功に了つた補助艦制限問題を討議致しましたが、今回は各國間の友誼と公正なる輿論の支持とにより少くも日、英、米三國の間においては完全なる協定が成立し、華府會議以來の軍縮事業もこゝに一段落を告げたのであります。斯くして今やこれ等三國間においては如何なる艦種についても建艦競爭を繰り返すの虞れを無からしめたのでありまして、これがため各國共に財政上の負擔を輕減することを得たるのみならず、國際間に相互の信頼を增し、友好的提携を進むる效果の偉大なるものある事は疑ひを容れません。

＝次いで＝十一月六日より壽府に開かれた國際聯盟軍備縮小準備委員會において參加卅余國の代表者は、大正十五年五月以來六回に亘る同委員會の事業を通じて陸海空軍制限方式に關する具體案を完成したのであります。勿論これは近き將來に開かるべき本會議を待ち軍備縮小の實蹟を擧ぐべきものでありますが、今日迄委員會の努力を一貫せる精神は今後軍縮事業の進路に向つて光明を與ふるものと信じます。極東全局の平和維持を顧慮して措かざる我國にとりまして隣邦中華民國の事態は極めて密接なる利害關係を有するのであります。中國民の正當なる要望に對して深き同情と理解とを有する我政府および國民は多年統一と秩序ある

＝中國の＝出現を期待してゐるのでありますが、一方昨年中における中國の政情は時に內亂又は匪徒の行動により地方的不安に襲はれたにも拘らず、大局より見て安定並に統一に一歩を進めたのは我々の喜びとする所であります。平和と繁榮を樂しむ新中國の建設は單に中國民の福祉たるのみならず、東亞に位する隣邦諸國更には又全世界の平和と繁榮とに貢獻するものであります。更に經濟の方面を見ますに今日は殆んど全世界を通して經濟的不況に苦しみつゝある時でありまして、我國もまたその例に洩れず、今や官民一致の努力を要すること切なるものがあります。申すまでも無く輸出入貿易の消長は我國民の經濟生活に至大の關係を有するものでありまして、世界各地における

＝經濟界＝の趨勢は必ず我國にもその影響をおよぼすのであります。今日我國は全世界に原料品を需めると共に、製造品の販路をも全世界に需めつゝあるのでありまして、我國民經濟生活の安定を期せんがためには各國との間に圓滿なる提携を必要とするのであります。私はこの昭和六年において世界現下の經濟的不況が打開せられ、各國民が共存共榮の大理想に向つて邁進せんことを切望致すのであります。



賑やかな初荷◇◇◇（上）高居自轉車店（中）大塚硝子製造所（下）嶋屋釀造所

三二年の春は先づ商店街から

景氣のい、初荷車　福箱も飛ぶ樣に

自轉車にはお榮光に輝く昭和六年の第二日は喜びの裡に明け初めた、新裝凛々しき元旦の街と打つて變つた二日の朝まだきから本町通を中心に府內の各商店は今年の景氣を占ふ如く威勢よく門扉を打ち開いて景氣よい賣り初め福箱を賣ふ福箱は客足をひいて飛ぶ樣に賣れて行く元祿の昔から傳つた初荷は商の神の象徵——揃ひの印袢纏に赤、青、黃と色とりどりの向ふ鉢巻き、景氣よい聲援で市中を練り歩く…年の活動は先づ商店街からはじまつた。ことに眼立つて美事なのは初荷車六十余臺をならべて蜿蜒數町にわたる長蛇の列を作り、鮮鶴、櫻正宗、白鶴など清酒の飾り車か、トラックや、サイドカーで花彩の旗を翻へしたて、勝ち誇かせ疾走するのもあり…初荷の情景である、その他目新しいところで嶋屋醸造所、大塚硝子製造所など次々と本社を訪れ萬歳をさけんで引上げた

突如京城に麗姿を見せた

夏川靜江さん　滿洲大連への途中

日本のスヰートハート夏川靜江が二日突如京城にあらはれました。正月十日までのお休みを利用して村田實以下六名とともに滿洲大連にレヴューをうちに行く

途中 ちよつと京城に立寄つたのです。南大門通二丁目元鐵道病院長佐々木四方志氏が知り合ひなので一行より一足さきに出て京城で一夜を過したのですが、二日午後一時、佐々木氏の案內で日活撮影所の大島屯氏（朝鮮總督府新田氏令息）靜江さんの姉さん綠江さんの四人連れで本社に挨拶に來ました。黑のリンドバーク帽に黑のオーバー

黑の 靴と黑づくめの上品なつくりは女學生上りのお嬢さんの感じでとても今は時めくスターとは受けとれません、それでもつゝましやかに語る言葉にはレフアインされた人氣商賣の聊誇があります

「お休みを利用して一寸滿洲まで參りますが寒い寒いとおどかされて來ましたのにこの分ではと急に元氣になつてみたさまに笑はれてゐます。船にゆられて渡つて來た朝鮮は異國のやうな氣持で居りましたが白衣の朝鮮の方を見る以外には

全く 內地と違はないのにびつくり致しました今度は素通りでございますがゆつくりと寄せて頂きたいと思ひます。どうぞ御社からファンの皆様によろしく申上げて下さいまし」

と語り本社玄關前でカメラに入つた。なほ靜江さんは二日午後七時發列車で村田氏等一行と落ち合ひ滿洲に向つた。（寫眞は本社玄關にて右から二番目が夏川靜江）

寄附

府內旭町三丁目野々村謙之氏夫人は去る十八日京城放送局で放送された救世軍の『慈善鍋の由來』のラヂオを聞き慈善鍋のため十圓の寄附をなした

愈よスキーシーズン到る

雪よ、降れ、降れ　どんどとつもれ

雪、雪、スキーヤーが待ち焦れてゐた雪だ。外金剛溫井里方面の雪便りはまだ來ないが、京元線三防スキー場では二日朝までに積雪五寸余、なほ降り續いてをり一尺までは大丈夫降り積る模樣、積雪量は京城驛待合室、滿鐵案內所、三越內ツーリストビューロー、南大門通京城運動具商會および本町森常商店で揭示する。なほ三防の積雪一尺近くでスキーが出來る程になれば日曜その他の休日にスキー臨時列車が出るが、京城驛午前六時四十分、三防着午前十時四十分、三防發午後五時、京城着午後八時五十二分で便利がよく、このシーズンに運動具商會ではスキーを新たに四十臺を、森商店では廿餘臺を賣つてをり、三防はスキーヤーで賑はふであらう

軍部の拜賀式

軍司令部と師團司令部では一日午前十時から各々會議室で御眞影拜賀式を嚴かに行ひ、同十一時半から龍山偕行社で新年宴會を開き三百余名出席年賀を交換し、また各部隊でもそれぞれ御眞影拜賀式を行ふたが、平生いかめしい軍隊だけあつてなごやかな正月氣分が一層よくあらはれてゐた

二人組の强盜押入る

格鬪して拳銃を奪ふ　潜伏中を逮捕さる

【鎭南浦發】鎭南浦府外春木醫院に三十一日午前一時頃二人組の强盜押入り、主人春木と格鬪の上春木の所持せる拳銃を奪ひ取り、逃走中なるを折柄警戒中の青年團員が發見、追跡せるも逮捕するに至らず急報により鎭南浦署においては非常召集を行ひ極力犯人搜査に努めたが、その結果同日午後三時頃府內旭町に潜伏中なるを刑事隊が探知逮捕すると同時に拳銃をも發見した。犯人は左記二名にして何れも前科あり、余罪ある見込で目下取調べ中である

本籍平原郡青山面舊院里當時不定　金仁水（四三）

本籍定州郡海山面當時鎭南浦府億兩機　金京河（三六）

世界一の新議事堂

日本人が設計施工し　材料一切が國產の品物

今年いよいよ落成

昭和六年——今年こそは待ちに待つた新議院が落成を告げて第六十議會劈頭における開院式は展く天皇陛下の親臨を仰ぎ奉り永田町なる新議事堂にて擧行せられるのである。大正九年起工以來正に十二年、國帑を投ずること二千八百萬余圓、使用延人員五百萬人の力によつて我等が立法の大殿堂新議院は今や着々竣工の日が近づきつゝあるのだ。

◇

今や、新議院の工事概要を記せば、敷地の總面積二萬二千坪、議院の延建坪一萬五千七百八十坪、地上三階（一部四階）地下一階間口六百八十一尺、奧行二百九十二尺五寸近世式鐵骨鐵筋コンクリート造り花崗石張りの本館は軒高六十九尺、もしそれ中央に高く聳ゆる高塔に至つては海拔正に三百四尺、塔だけの高さ二百十六尺、日本は愚かスエズ以東における建築ではこれに比肩すべき何物もない

◇

正面玄關に直々と聳立する四本の大圓柱は直徑六尺、高さ四十八尺、美しい花崗石で裝はれてゐるこの大圓柱一本に費されたる費用が正に二萬圓、四本で合計八萬圓だ。これだけで二千圓程度の小住宅なら裕に四十戶はできる勘定だ

◇

議場の廣さは貴衆兩院とも二百二十九坪で世界第一の廣さだ。目下のところではドイツが第二位、アメリカが第三位となつてゐる。議員の席數はこれも兩院とも五百十九席であるが將來の擴張を見越し最大限六百三十六席まで收容出來ることになつてゐる。傍聽席は七十席、衆議院が九百二十二席となつてゐるが、もし現在の丸見席の樣に改造するならば裕に二千人は收容出來る見込みである。

◇

本館の議員控室、委員會室等は總て三百九十室、これを一室一分間宛の超スピードで見て歩くとしても正に六時半の時間を要する。この各室を連絡する大廊下だけの延長が一哩を少し下まで加へるならば約二里に達する。また電信電話線を收容するパイプの長さは富士山の高さの十二倍に達するといふから十四萬四千尺に達する譯である。

◇

また本館の外裝に用ゐた花崗石は德山の黑髮島產のもの十五萬二千枚（一尺四方）、倉橋島のもの十八萬枚、合計三十三萬枚であるそれから正面玄關大圓柱の上に飾られた圓窓の彫刻は横四十八尺、縦六尺五寸、八枚の花崗石から出來てゐるもので石の彫刻では正に世界一の大きさだ。

◇

この偉大なる建築がすべて日本の設計施工に成るものであること、材料一切が國產品であることも世界に誇る一つであると共に我國建築史上永遠に記錄されるものであらう。なほこの建築の總豫算は二千八百萬圓に達しもしこれを積み上げやうとするならば一人十四貫づゝかつぐとして二百八十萬人を動員せねばならぬことになる

銃を放ち油房全燒

共匪襲來して

【間島一日發電】昨三十一日午後七時東寧縣勝利屯支那人の油房に共匪數十名襲來して數十發の銃を放ち放火せるため、同地駐在保衞隊は百々たる銃聲に驚き、何れも隊構內へ逃げ込み油房その他は全燒された

盛なりし名刺交換會

恒例による府民新年名刺交換會は一日午後零時半より公會堂において開催、本府各局部長各銀行會社頭取社長をはじめ參集安藤府尹挨拶を述べ同府尹の發聲にて天皇陛下萬歳を三唱し盛會裡に解散した（寫眞は安藤府尹の挨拶）

同宿人の鏖殺企圖

【鹿兒島電話】三十一日午前一時ごろ鹿兒島縣國分町國分署前旅館相原熊一（五一）方に怪漢現はれ滯在中の投宿客鹿兒島市吳服町帽子商加島屋方店員石前規（三）同じく富山縣賣藥行商人栗原久吉（五）の兩人を棍棒で亂打し重傷を負はせ次で隣室の佐賀縣藤津郡能古見村松岡佐市（五三）を慘殺した後階下に就寢中の熊一夫婦をも慘殺せんとしたが、騒ぎだされて一物も得ず逃走し、自ら『ドロボウドロボウ』と連呼しつゝ驅けゆくところを巡邏中の國分署島田巡査に逮捕された、同者は同旅館の投宿客鹿兒島市藥師町雨傘行商人吉田義成（三）で投宿客全部を殺害して所持金を强奪せんとしたものである

タコマ稅關で邦人密航者

五名發見

【タコマ卅日發電】タコマ港稅關當局は日本汽船コロンビヤ丸（三菱所有）から五名の密航日本人を發見取調べの結果組織的の密航者送り込み團體を突きとめたと發表した、その主謀者は日本人機關三太郎及サミユエル事大沼二藏の兩名で共に逮捕され、外にコロンビヤ丸高級船員が抑留されてゐる當局側の言によれば機關は一人當り五百弗宛の報酬を受取つて密航をやらせてゐたものであると

ほめられぬ新案門つけ

ジンタドンタと賑やかな鳴り物入りで町內をふれ歩くジンタを應用した一九三一年劈頭の新商賣——一日旭町から南米倉町にかけて若い三人づれの朝鮮人が太鼓、ラッパを抱へて大きな商舗と見れば立開口に一列縱隊をつくり、勿體なさそうに君が代を一曲やり出すのであつた。敬意を表されて門づけを受けるのはいゝがそれが國歌君が代とあれば有難迷惑げに一ひねりのお祝ひ……ともあれ余りほめた新案とはいはれない樣だ

合併反對の氣勢を揚ぐ

あす仁川四團體が委員會開催

【仁川電話】仁川府政振興會、反對株主同盟會、聯合青年團、町總代會の四團體では三日午後二時から仁川公會堂に委員會を開いた上、紛糾を重ねた去る廿九日の仁取合併總會の顚末報告のため四、五日頃午後七時から公會堂又は歌舞伎座で府民大會を開催し、仁取合併移轉反對氣勢を揚げるはず

謝出火御見舞

今曉出火の際は早速御馳付御見舞を忝し深謝仕候一々參趨御厚禮可申述筈の處混雜中御尊名伺洩も可有之不取敢以紙上御禮申上候追て同所同番地に於て從前の通り診察に從事可致候

京城府蓬萊町一丁目三番地　內科小兒科　西山醫院

新年初賣

恒例によりまして三日より五日まで全店初賣出しを催します本年も相變らず御引立の程偏へに御願申上げます

たから箱贈呈

吳服賣場に於て現金五圓毎に贈呈

新春の御慰みとして、吳服賣場に於いて現金五圓御買上毎に興味ある寶箱をよりどりにて一個宛贈呈いたします

初賣特賣品

各賣場にて新年奉仕として初賣特賣品を多數提供いたします

新春の催し

三日より五日まで（毎日三回開演）

龜子舞踊團新春公演

…三階ホール…正午、二時、四時…三回

新年の食堂

勅題ランチ其他新春獻立

營業時間　午後六時迄

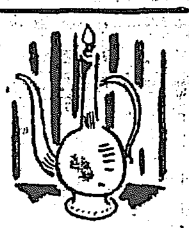
お正月の寫眞は丁子屋へ

…五階撮影室…

（當分二割引奉仕）

丁子屋

おもしろい お正月の遊び
先づ手近な材料で



お正月の遊びのうちなるべく手近の材料で簡單な、そして面白いものを擧げて見ました。

マッチの棒遊び

マッチの棒若干を三ヶ所に分けて甲と乙とでその一ヶ所から若干宛拾ひ合つて、最後に拾ふ番に廻された人が負けになります。この遊びは一寸考へるとつまらないやうですが非常に智慧競べの伴ふ遊びで、やつて見るとかなりむづかしいやうです。

（競技の仕方）三ヶ所に置いたマッチの棒を最初はなるべく少數宛拾ひ合ひます、この拾ひ方はA、B、C三ヶ所のものを甲がAの場所、乙がBの場所又は甲がBの場所、乙、Cの場所から拾つても差支なく又何本宛或は皆拾つてもよいが一回一ヶ所に限られてをります。

そして適當の機會を見てその三ヶ所のうちの一ヶ所を皆拾つて仕舞つた時殘る二ヶ所の數が同數になればその後は敵の取る數と同じ數を拾ふことによつて最後の勝利を占めることになります。この同數にして敵に番を廻す點が非常に興味があり、またむつかしいところです。

とらんぷ遊び方

一、元帥　これは二人以上五人までやる競技です。最初トランプのキング、クイン、ジャックの三枚が十一點、ポイント（一）が十二點、その他は數の通りとお定め下さい、そして親になつた人が自分の次の人から右へ順に三枚宛配ります、そして殘つた札を中央に伏せて置きます、親から順に自分の札一枚を捨て、伏せた札をめくり、同一種類の札で早く最高點即ち三十四點に達したら其人がストップをかけます、ストップをかけられた人達は一回だけ伏せた札をめくる事はできますがそこで皆の手札を開いて數の勘定を致します、それを記錄して置いて今度はストップをかけた人が親になつて同樣に繰返し三回の記錄を合せて計算の結果次のやうに進級して行きます、最初は皆さんが見習士官の資格です

A　34　34　34—102（二級昇進大尉）
B　34　34　33—101　又は96迄（二級昇進中尉）
C　34　30　31—95　又は90迄（一級昇進少尉）

即ち早くストップをかけられて自分の持札點數が少いため三回の合計が九十點に達しなければ何時までも見習士官でゐなければなりません、そこで敵を落して自分が昇進するためには三十四點に達しない時でも二十八點以上の持札があれた時そして三回の合計九十點以上になれると思つた時はストップをかける資格があります、但し計算の時自分より上の數を持つてゐる人があればストップをかけた人は零點となります、斯くして早く元帥になつた人が優勝者となります、尚は競技中他人が場に捨てた札を拾つても差支ありません、同一種類とは、クラブならクラブだけ、スペードならスペードだけを集めるのです、昇進の順位は少尉、中尉、大尉、少佐、中佐、大佐、少將、中將、大將、元帥です。

二、カード隱し　これは百人一首でやる『坊主めくり』に近い遊び方です、トランプ全部のうちから誰かゞ一枚をぬきとつて隱します（この札は誰も見てはいけません）殘つた札を五人でも三人でも皆に等分に分けて、札の數の合つたのは二枚づゝ捨て（ほかに合つたのがあつても一同に二枚だけしか捨てられません）左から右へ一枚づゝ次の人に持札を拔き取らせて行きます、最後に一枚相手の無い札を持つた人が負けになるのですが、この遊びの興味は終りまでどの札が隱されてゐるかゞ誰にもわからないところにあります。

羽根ゲーム

今度は室外の運動をいたしませう。お庭の木から木又は短棍でも宜しい、高さ六尺位の所へ一本の繩を結びつけます、その下の地面へ繩を中心としてコートをつくります、コートの幅は一間半、長さは二間位にいたします、但しもつと大きくとも宜しいのです、此コートの中で繩でネットとしてテニスを致します、サービスは片手で羽根を上げて羽子板で打つこと、但し一回限りとして他はテニスと同樣の規則でいたします。唯違ふのは定められたコートの外へ出て打つてはいけない事とサービスは一回、レシーヴはその羽根を打ち返すが繩の下げ綱と見なしてするのですから必ず上を越さぬといけません。

手品の種あかし

一、五色水　卓子の上には一つのコップと水差しとがあります。現はれました手品師は手に一枚のハンカチーフを持ち、見物に向つて裏と表を見せた後、コップを改めてから水差を取りあげて水晶のやうな水を滾々と注ぎ込みます、そこで

『さて皆さん、此水をお好みにより赤、紫、青いづれの色にでも染てお目にかけます』

と申しますと見物から赤、青、紫といろいろ申します。

『それでは最初赤に染てお目にかけます』

とてハンカチーフをコップに被せワン、ツー、スリーのかけ聲でハンカチーフを除きますと中の水は眞赤になつてをりますので、拍手喝采です。

『さて次にはお好みにより青い水に取り變へて御覽に入れます』

とてまたハンカチーフをコップにかけて、ワン、ツー、スリーの掛聲で除けば水はその通り青と變つてをります、また見物から大喝采です。

（種明し）テーブルの抽出の邊に最初から蠟紙の青、赤、紫その他の色でコップの中に入れる大きさの桝にした丸い筒を張りその下邊に一二ヶ所銘をつけて置きます赤を最初に出すとすれば青は赤よりも直徑を大きく又高さも少し長くして置きます、そしてハンカチーフを被せる時巧にコップに差込みます。（學校の理科で藥品を用ひて色をつくることを敎はつたでせうが、往々危險が伴ひますからこの方が安全です。）

二、不思議の幣束　卓子の上には一本のビール瓶が置いてあります、手品師は一本の幣束と左手に指揮棒を持つて出て參ります。そこでいろいろ挨拶をした後、ポンと幣束を瓶の中に投げ込み、指揮棒を右手に持ち代へて唱歌か流行歌などを唄ひながら指揮すると、これは不思議幣束は歌に連れて踊るは踊るはビール瓶の口から飛び出しさうにたつてうかれ踊ります、指揮者が止れといふとまた靜かにをさまります。

（種明し）最初幣束はその下にむすびつけた黑絲を適當の長さで右足のおや指にむすんだまゝ持つて出るのです、これでおわかりでせう。

數字の不思議

これは遊びではありませんが、お友達とやつて御覽なさい、ここにしめした計算が濟みましたら次に一に九を乘じて二を加へ、又一二に九を乘じて三を加へ、次は一二三に九を乘じて四を加へ順次同樣にやつて御覽なさい。それは意外な數字が現はれてきつとびつくりするでせう。

$1 \times 9 + 2 = 11$
$12 \times 9 + 3 = 111$
$123 \times 9 + 4 = 1111$
$1234 \times 9 + 5 = 11111$
$12345 \times 9 + 6 = 111111$
$123456 \times 9 + 7 = 1111111$
$1234567 \times 9 + 8 = 11111111$
$12345678 \times 9 + 9 = 111111111$
$123456789 \times 9 + 10 = 1111111111$

羊は溫和な「可愛い動物」

日比谷公園　柳澤忠利

羊と人類との關係

今年は羊の年に當るのであるが羊と吾々人類との關係は極めて密接なるものであつて吾々文化生活を營む國民としては羊の恩惠を蒙らなくては一日として過ごされ得ないまでもないとしても多大の不便と困難とを感ずるものである。

▼…▲

吾々が日常用ひてゐる羊からの生產物である所の羊毛をもつて作られてゐるものは種類といひ數量といひ莫大なるもので、即ち洋服外套、シャツ、ズボン、靴下、帽子、手袋、襟卷等數へ擧げれば限りなく、また婦人物においてもフランネル製品や、モスリン製品または毛糸製品なども又決して尠くはないのである。

▼…▲

斯樣に羊は近代人の實生活に深甚なる關係を有する重要なる資源であるといふ事は多くを語る必要はなからうと思ふ。

羊とはこんな動物

こゝに話す羊はすなはち緬羊のことであつてどうして緬羊といふかといへばその種の先祖に立ち歸つて見ると、山羊と同じ源から生れ出てゐる、いはゆる親類仲間である、緬羊の有角なるは大抵牡にして山羊においては牡牝共に有角にして牝緬羊は無角であるのが普通なのである

▼…▲

羊は動物學上から見れば脊椎動物中の哺乳動物であり偶蹄類の反芻類の洞角類である、しかして羊科中の羊族である、胃は皆さん御存じの牛の如くに四房に分されて各房は胃當によつて連絡しており一度嚥下した食物を再び口腔に戾してこれを細かに咀嚼し更に嚥下するものである。

羊は溫順な動物

羊は非常に溫順で恐つて四、五月頃（寒地暖地によつて多少異にす）になれば柔軟なる絨毛の全身を被へる羊毛を毛織物の原料として剪毛せられる、その剪毛の時でも無邪氣な二つ三つの子供が人の手に助けられて如何にも心よげに着物でも脫がして貰ふかのやうに非常に靜かにおとなしく剪毛をさしめる。更に角全身の羊毛を刈取るのであるから左右に轉かしたり又は腰を曲げさせたり、その他樣々な位置にして剪毛を行ふのであるが、剪られた毛は一枚の着物の樣に剝がれて、見る間に一頭を濟ますことが出來、丁度羽兒でも抱へ廻はすやうな有樣で、その溫順さはほかにその例を見ないのである。

▼…▲

斯樣に溫順で謙遜であるだけに又友を慕ふ情も非常に厚く常に三四頭以上にて飼育されてゐる羊の中一頭が群から離れたが最後殘りの羊群は終日鳴き聲を擧げて一心に友を探し求めるのであつて、その離れ子が運よく見つかつた時は喜々たる聲を張り上げて如何にも嬉しげに小飛りしてその群中に入れるなど誰に憚かざるを得ないのである

▼…▲

一人の牧童者に伴はれて多數の羊が群をなし、夕日は山の端に傾き、森の間から放つ細かい二、三の光線を縞模樣に浴びて銀色に色取られた羊の群がさも愉快さうに羊舍に並び歸りしつゝ牧者に導かれるまゝに從つてゆく、その姿は如何に無邪氣で、平和な希望に滿ちたる情景ではないか、全く筆紙に盡けぬ妙味がある。自然の背景と羊の犧牲とその牧歌を想像して來たならば、誰しも温かい詩的情緖を深からしめるであらう。

羊畜の奬勵

斯うした溫順な動物であるから育畜管理は男女老若を問はず出來るのであるから農村においては副業の一つとして飼育し現今の羊毛毛織物が輸入品の主なるものであるのに鑑みてもこれが輸入防遏をなし、なほ益々國民生活向上と共に需要增加する今日、宜しく羊を飼育せねばならぬ。これは國民生活經濟の向上にもなり、又個人の直接的利益にもなるのである。かうした溫順な平和な羊の年を迎へた今年を慶賀しつゝ筆を擱く。

星になつた「羊の傳說」
アリエス星座の話　勇士ヤソンの冒險

新春に冴えた正月前後の中天に輝く星座の一つに牡羊星座（アリエス或ひはアルゴ星座）といふのがある。すべての星座がそうである如く牡羊星座もまたギリシャ神話によつて名づけられたものである。そこで羊の年といふのに因んで牡羊星座の傳說を次に記さう。

×

昔ギリシャのアタマス王にはフリクサスといふ男女二兒があつた或る時飢饉の際繼母イノーのため犧牲に供されようとした危機一髮の時、空から金色の牡羊が下りて來て、兄妹をのせて東方の空遠く飛んで行つた。そして黑海を過ぎて更に海峽の上まで來た時、誤つて妹のヘレンは振り落されて海に落ちてしまつた。この海はヘレスポンド、今のダーダネル海峽である。

×

フリクサスだけのせた金羊は黑海の東岸コルキス國についた。國王アヤーテスの厚遇を受けたフリクサスは彼の金羊をゼウス神に捧げた後、その羊皮を王へ贈つた。王はこれをトースの森に秘藏し不眠の龍をして守らせた。後フリクサスは死んだが、彼の靈魂は金羊の毛皮を離れず亡靈はミニヤの勇士達に現はれ、毛皮の取り返しを賴んだが、誰も望みを遂げてやる者がなかつた

×

さてその頃テスサクヤにヤソンと呼ぶ年若い勇士がゐた。彼が若年の故を以て、叔父ペーリアスが王位にゐたのであるが、成人した處ヤソンは王位繼承の要求をした處腹黑い叔父は、當時噂の金羊の毛皮を奪つて來たら王位を讓らうといつて、ひそかにヤソンの死を祈つた

×

冒險心に富むヤソンはアテナ神の助力によつて樅の木で丸木船を作らせ、作者の名前を船の名としアルゴス丸と稱へ、剛勇無雙の勇士五十人を率ゐて船出した。

×

ヤソンの一行はいく多の受難の末、遂にコルキス國に到着し、國王に金羊の毛皮を貰ひに來た事を告げると、王は雄牛二つを出し、火を吐く牡牛で土地を耕させ、又昔カツモス（テレクサスとヘレの繼母の父）が殺した龍の齒を蒔く事を命じた。

×

王にメデヤ姫といふ美しい姫があつた。妖怪を使ふので名高い姫であつたが、ヤソンはこの姫と戀に落ちその敎へに從つて身に靈藥を塗つて火を除け乍ら牡牛で耕作をしたので衆人の的になつた。次にその齒を蒔くと、忽ち無數の勇士が現れてヤソンに襲ひかゝつたが、姫の敎へによつて石を投げると、勇士等は同志打ちを初めて死んでしまつた。そこでヤソンは不眠の龍に呪の水を注ぎかけて龍をねむらせて殺し、首尾よく金毛の羊皮を取り返しメデヤ姫と共に歸國する事が出來た。そして毛皮を海神ポセイドンに捧げた。後このアルゴ丸が天に昇つて星座を作つた。即ちアルゴ星座がそれである

×

この星座は右に羅星座、下に鯨星座があり、丁度十二月から一月へかけて沖天に位置するのである

屠蘇・酒・人生
酒を飲めば「人々は何故踊る」

◇…小塩完次

▼▼…元旦の初日の出と共に一年をことほぐ屠蘇の語源は『鬼氣を屠絕し、人魂を蘇生す』といひ出したものから來てゐるが『公事根源』によれば平安朝時代五十二代嵯峨天皇の御宇弘仁年間即ち今から一千百年前に初めて支那から傳はつた風習で、支那では『一人これを飮めば一家病なし、一家これを飮めば一里病なし』といふ事から起つたものである。

▼▼…我が國にては本來は元旦にのみ行はれてゐたのが漸次三ヶ日中用ひられる樣になつたのである。屠蘇の製法には色々あるが要するに漢方の大黃、肉桂、ヤマト人蔘（防風）、山椒、桔梗、白朮といふやうなものを味淋につけて作るもので、これは非常な刺戟性があつて子供等には特に有害で飮酒の習慣もこれに起因すると見られてゐる、然し元々屠蘇は迷信的にしろ保健衞生の見地から初まつたものであるから屠蘇の有害なる事の知られたる今日之れを排棄するのは古人のよき意志を繼ぐ子から見ても有意義な事である。

▼▼…子供に飮酒の習慣をつけるのは屠蘇が最も多くして他には饗宴、祝祭における酒宴であるが、かゝる事は一家庭の事であるから勿論官憲が這入つて取締るといふ事も困難でこれは母親の愛で、然かも科學的理解ある愛で子供の飮酒癖を作らざる樣にし、又習慣あるものはこれを矯正せねばならぬ

▼▼…從來の母親には酒に對する定確なる害の把握がなかつた、從つて大酒せず毎日飮めば百藥の長である等の說が深く浸み込んでゐたために害を知るに至つても排除する事ができないでゐる場合が多い

▼▼…抑々アルコールは興奮劑にあらずして痲睡劑であるといふ說は今から約七十年程前にドイツのシュミーデ・ベルグといふ學者が說き出したもので、アルコールのため一見興奮するかの如く見ゆるは錯覺であつて酒飮めば疲勞感覺が痲痺せられるから疲勞が回復せられたやうに錯覺で思はせるにすぎないのである、飮酒後體溫を計つて見れば體溫が昇つた樣に思はれる體溫は却つて降下してゐる

▼▼…即ち飮酒後アルコール分は表皮下に近い血管を開かせて體内の血液を體の表面にあつめ、又一グラムのアルコールは七カロリーの熱を作るが、これも體表にあつまる、從つて體溫より低い氣溫には體表より體熱を盛んに放散してゐるのであるから、寒感覺を痲痺された體は著しい寒さに感じられても實は體溫は平常熱よりも低下してゐるのである。飮酒家が寒さ凌ぎに飮酒するかと思へば暫しのぎも

酒飮めば頓に心は春めきて
借金取りも鶯の聲

といふのがある、これは憂を拂ふ錯覺からおこつた歌である。

▼▼…又アルコール分が身體に巡ぐりば沁み渉り人々は皆醉る。即ち身體の最も大切な部分である抑制中樞を痲痺して仕舞ふから良心は痲痺せられ同情心、羞恥心も痲痺せられて踊り狂ふ丈け句のはてには犯罪を犯すやうな事にもなる。酒仙李白、酒をたゝへて曰く『酒一升詩八片』と。然しその裏で本音を吐いて曰く、

劍を拔いて水を切らんとすれば水いよいよ流る、
杯を重ねて憂を去らんとすれば愁ますます愁ふ

▼▼…これは田夫野人であらうが皆同じ事である、犯罪にしろその九割までは抑制中樞を痲痺する酒から來てゐるといへば驚くかも知れないが事實だから仕方がないであらう。

▼▼…このおそるべき酒害を今度は直接肉體に影響する方面から見るに帝大の山極博士の說く處によれば胃癌百人中八十六人中八十三人までアルコールの蓄積作用で幾年かの後に起こつたものであるといはれてゐる。松酒有志大郞博士も

飮みながら酒の害知るその頃は
やがて知るかい（肝臓）あらめ

その頃といはれてゐるやうにアルコール中毒になつたら最早元に返へす事は不可能事であるから子供の頃から母親が子供に酒飮む機會を與へないやうに心懸けねばならぬ事が最も肝要である

▼▼…以上は保健上、精神上、道德上から酒害を見てきたのであるが、これを經濟上から見てみやう

▼▼…我が國年々の酒類消費額は彭しいもので糯酒四百五十萬石、ビール百萬石、ショウチュー、味淋合計約八十萬石、その他濁酒、白酒、洋酒、各種の酒類合飮料水を加ふればその額は非常なもので、その消費額は年々約十五億圓に達するので一圓札を十五億圓重ねて見れば一萬二千三百六十五尺の富士山の五十二倍の高さになる。今日の我が國家歲入と殆んど同じ巨額に達するものである。内地人口六千萬とすれば一人當り二十五圓、一家五人とすれば百二十五圓の飮酒料を支拂つてゐる事になり一家の酒代を出してゐる事になる、佛人エミールバンダベルがいふ如にはプロレタリアは外部のキャピタリズムと戰ふと同時にアルコリズムと戰へと、又大谷光瑞師曰く『食はざれば死する處の米を以つて、飮まずとも死せざる酒を作る。恐これに越ねたる事なし』と、實に名言ではないか。

▼▼…米國の國家禁酒はフーヴアーの商務卿時代に食糧問題から確立されたもので當時フーヴアー氏は敎員から小供へ小供から家庭へと禁酒の徹底的宣傳をさせたのであるが、その宣傳の言葉中に日本の『ミヨウガガツキル』『モッタイナイ』といふ言葉を引用したといはれてゐる、この酒飮めばミヨウガがツキル、モッタイナイとの考への本に、年頭第一に禁酒を斷行することは最も意義ある、人類のため喜ぶべきことである

謹賀新年

全南羅州郡老安面 公立普通學校 職員一同

全南羅州 評議員 羅州金融組合長 金炳斗

全南羅州 藥種、賣藥、化粧品、石炭、木炭 廣岡至誠堂 電話二六番 振替京城六八九一

全南榮山浦 郵便所職員一同

湖南線榮山浦 山本旅館 電話十六番

羅州郡南平酒釀業組合 組合長 緒方民平 副組合長 荒尾謙次郎 理事 立川友一

全南羅州本町 公醫 松山意佐美 電話一〇〇番

全南羅州郡松月里 羅州學校組合會議員 果樹農園 野村喜太郎

全南羅州本町 木炭商 三丸商會 電話三九六番

全南羅州 米穀商 李載英商店 李連奉商店 電話六三番

江原道通川邑 五月會

浦項料理屋組合

咸興府大和町三丁目 咸興物產株式會社 電話五二〇番

京城府竹添町二丁目 三木合資會社 電話光化門 五九七番 二〇六〇番

新年の洋髮樣々　令嬢向き　奧様向き

帝都一流の美容家が新年に因んだ洋裝の新研究を、誰にでも立派に結ひ上げられるやうに、一々順序を圖解で親切に說明されたものです。これこそ新時代に相應しい上品で氣のきいたものばかり、誰方にもスグ出來ますから、ぜひ御試し下さいませ！

▲令嬢向き　お勅題結び
▲洋裝向きの　モダン洋髮
▲輕快な　令嬢向き洋髮
▲上品な　奧様向き洋髮
▲中年向きの　おちついた洋髮
▲粹でモダンな　奧様向き洋髮
▲清楚な　若奧様向洋髮

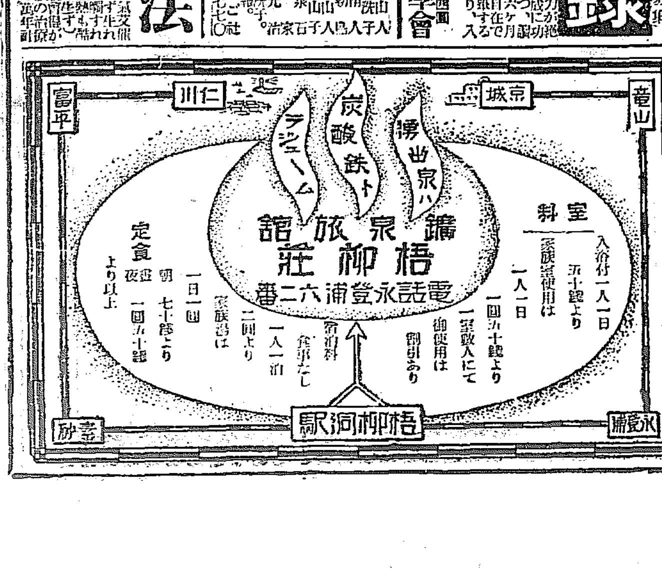
右は大評判の婦人倶樂部新年號にあります
斷然婦人雜誌をリードする美髮記事!!
賣切れぬ中お早く御求め下さい
婦人倶樂部新年號　八十錢　外に二大附錄つき　送料本誌四錢 附錄十錢

賀正
吉例 年頭初賣出し
一月三日より五日まで・全店にて
恒例に依り……現金にて一口御買上五圓毎に抽籤にて福箱又は石鹸等を御年玉として御贈呈
尚、一圓より五圓までの御買上の皆樣に「開運箕」を洩れなく進呈
何卒賑々しく御光來の程願上ます
營業時間　當分午前九時半より午後五時まで　尚、毎土曜、日曜日の夜間營業は勝手ながら一月中は休止致します
京城　三越

立身出世の近道は英語から
帝大系 速成英語講義錄
新學期 會員募集
小學校卒業の學力で英語を獨習せんとする者は中學卒業の英語力に對する必要な英語を今日から現代に成功せんとする者は中學の英語を...
東京・芝區 速成英語學會　一ヶ月八十錢　三ケ月二圓二十錢　全學期六ケ月四圓
ハガキで申込次第内容見本無代進呈

新年號 ダムかど 一千餘頁 大増頁 七十五錢

新職業 靈感透熱療法
難病



辛未新年紙上名刺交換會

文明琦

龍野文一 全羅北道漁業組合聯合會理事長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岡本[illegible]

菅原一郎

[illegible]

林茂樹

市田次郎

山根政治

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金泉 [illegible]

[illegible]

岡部駿[illegible]

李炳[illegible] 大邱府西城町一丁目一〇三

金瑞圭

[illegible]

吉田清三 松汀水利組合長

木浦 新谷俊雄

[illegible]

細井彦之助

木浦 高山聰郎

木浦 [illegible]

木浦 中村安雄

岩瀬静

小林政哲

[illegible]

[illegible]

松田[illegible]久

東山 渡邊[illegible]

横木正

高橋重雄

玄俊[illegible]

[illegible]

[illegible]原太郎

松井[illegible]

奥村信吉

光州 安東[illegible]郎

吉田英三郎

横田[illegible]助

[illegible]信乃雄

三浦計

朴[illegible]

[illegible]

[illegible]三

[illegible]

福井武次郎

園田寛

仁川 [illegible]

光州 落合[illegible]

田川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高橋昇

京城日報 其二

五九議會 ―と貴族院―
扨てどう納まるか
衆議院が數で押切る以上 結局問題はこゝまで行く

第五十九議會は濱口内閣の政策を檢討するはじめての通常議會である。即ち濱口内閣が、如何なる政策を掲げてこの難局打開に邁進せんとするかを國民に明示し得るはじめての好機會であり、議會としては濱口内閣の政策が如何なるものであるかを討議するはじめての機會でもある。ときたまく首相濱口雄幸氏は昨秋東京驛にて遭難し、爾來靜養に努めてその健康も略恢復したけれども、與黨内部には臨時首相代理をめぐりて幾多の暗流あり、虎視眈々たる野黨側は虚あらば衝かんと意氣込んでゐる事とて

朝野兩黨 は勿論貴族院各派の鬪士は休會明け議會に肩を並むる準備に怠りなく日一日とその緊張味を見せてゐる。しかして衆議院においては與黨民政黨が絶對多數を擁つてゐるから政友會が如何なる戰術を以て濱口内閣打倒の一本槍で肉薄して來ても與黨の絶對多數に押し切られる事となり、議事の妨害をする位が關の山で到底歯が立たない事はあまりに見え透いてゐる。それで第五十九議會の形勢如何は結局貴族院の形勢に反映する事に歸着するのであるが、政友會もこれに對する戰法を心得て居て、故において到底勝味のない衆議院よりも寧ろ貴族院で政府に致命傷を負はしむる戰略に出づるべく、鈴木喜三郎、岡崎邦輔、勝田主計、宮田光雄、三井源一郎、山岡萬之助、八田嘉明諸氏（以上研究）南弘、川村竹治、鶴見祐輔、長岡隆一郎、水野錬太郎、小久保喜七諸氏（以上交友）藤村義朗、西原俊丸、池田長康諸男（以上公正）等の政友系議員の總動員を行ひ、更に政友會に好意を寄する前田利定子、奥平昌恭伯、林博太郎伯、小笠原長幹伯等と聯絡を保ち（一）財界問題（二）小中產業者並に失業救濟問題（三）勞働組合法（四）豫算案（五）國民負擔の輕減問題（六）補充計畫（七）米價對策（八）對支對露外交の失敗（九）[illegible]の帶族勞働問題等の攻め道具を提げ、

財界問題 については政府の金輸出解禁の失敗を指摘し、景氣恢復について當局の無爲無策を攻め、中小產業者並に失業救濟問題については研究會が關心なのを利用し、前議會における建議案の跡始末をするため、更に政府にその施設を强要する決議案をものにし、濱口内閣に致命傷を負はしめ、勞働組合法案に對しては實業家出身勅選議員、多額議員の全部、有爵議員の一部に瀰漫なる反對意見あるのを利用し、これを否決の運命に導き、豫算案に對しては前議會における政府の言明に徴して井上藏相の責任をはじめ、來年度豫算に現はれた不徹底さと國民負擔の輕減が政府の聲明に反する點を追及し、更に補充計畫を繞りて軍縮條約の失敗より統帥權問題、軍事參議官會議の申合せ、海軍大臣の不統一に基づく谷口軍令部長の聲明等幾多の不徹底を難詰し、對支對露外交の軟弱、理蕃政策の失敗、米價對策の無能等を攻撃し、政府の秕政を擧げて反政府的氣勢を高め、中立議員を動かし、現内閣をして再び起つ能はざる致命傷を負はしめんとするの策戰に出るであらう。これに對し政府および與黨は衆議院に絶對多數を擁しその支持を受けてゐるに拘らず貴族院がその政策を阻止するは不合理であるとの理由で、有爵議員を動かし、遮二無二切り拔けんとの策に出づべく今期議會の貴族院は近來にない緊張した場面を展開し、一層の活氣を呈することゝならう。

二

そこでかくの如き貴族院の正面は何うであるか、議會に直面してこれを知るの必要がある。火曜會（公侯爵世襲議員のみより成る）廿七名▲研究會（伯子爵議員の全部と勅選多額を入れた貴族院最大多數派）百四十九名▲公正會（男爵議員の全部と勅選多額を入れた貴族院の第二黨）六十六名▲同和會（勅選多額より成る）三十五名▲同成會（民政系勅選多額より成る）二十七名▲交友倶樂部（政友系勅選多額より成る）四十三名▲各會派に屬せざるもの三十一名（皇族を除く）の各會派があり

火曜會 は近衛公、細川、佐々木兩侯に依つて指導されてゐるが、元來この三人の指導精神は、貴族院は國民に基礎のない特權階級の集りであるから内閣の不信任を決議することなど絶對に避けるは勿論、國民生活と直接關係を持つ金錢法案は衆議院が多數で承認したものは貴族院でも承認すべきもので、單に政府があまりに暴政を行ひ國家を誤るが如きことある時にのみ斷然起つて政府に反省を促すべきものであるといふにあるから、同會としては今期議會においても、豫算案や勞働組合法案等が衆議院多數の承認を得たる以上は貴族院で修正するとか、否決するとかいふことには反對すべく、只財界對策と失業救濟について政府の考慮を促す程度以上には出まいと思ふ。

研究會 は華族第一の大世帶で民政系の同成倶樂部と一緒になつても政友系の交友倶樂部と一緒になつても貴族院の過半數を制する事が出來るのであるからこの會の態度が最も重要性を帶んでゐる。研究會は政友會が政權を把握して居た時代に發生した會派であるため、幹部の間には小笠原長幹伯、前田利定子等の如き政友色濃厚なるもの多く、會員中にも鈴木喜三郎、勝田主計、宮田光雄氏等を始め親政友系は可成りに多いのみならず政府が研究會操縱のため閥族に列せしめた渡邊千冬子は政策運動を起して幹部排斥をしく、殊に政務次官の伊東二郎丸子、織田信恒子が同會幹部と政府との聯絡を取つてゐる有樣なので政友系は會内の中立議員を口說き落し、勞働組合法案否決、中小商業者並に失業者救濟に關する建議案を可決した前議會の妙味を利用し、會内の空氣を硬化すべく暗闘を試みてをり、研究會としても同建議案を主唱してものにした關係から今議會でこの問題の跡始末をつけなくてはならないので、昨夏來前例のない實地調査員を特派するやら、各地の產業狀態をはじめ一般社會相の調査に當つたといふ熱心さであり、豫算案についても貴族院の希望する景氣恢復のための施設は殆ど言際的のものであつて、前議會で希望した救濟法實施豫算が計上されてゐないため相當手痛い質問の出るは勿論、研究會も最近は民政系が可成りに多く有爵議員中には火曜會と同樣の主張を持つてゐる人もあるから政友系の主張通りには纏るまいが現内閣に對して悉くが有利に動くものとは考へられない

三

公正會 は民政黨に好意を持つ藤田、岩倉兩男等が中心となつて動いてゐるから、政友會のために利用せられ反政府的行爲に出る樣な事は斷じてないが、この會派は研究會と妙に反りが合はないのと、何事でも理論に捉はれる習慣があり、又會員に軍人出身が多いから外交問題と軍備問題には可成りに强硬で、殊に補充計畫の如きは井上清純男といふ熱心家がをり可成り痛烈な質問を浴びせかける事であらう。外交問題についても對支外交の軟弱を攻め、殊に蠻頭漁業問題が前議會で建議案を提唱可決してゐる關係もあるから政府追及の態度をとるべく、勞働組合法案に對しても反對論者が相當にあるから政府は公正會を味方と數へるわけには行くまい

同和會 は殆んど大部分が民政系であり、たとへ民政系でない人でも大體火曜會の動靜を見て進退するといふ人が多いから政府の不利を招來する樣な事はあるまい

同成會 は反政府系の人は全くをらず、從つて斷じて政府擁護の任に當る事となるべく

交友倶樂部 は民政黨の山本達雄男系の二、三を除いては全部政友會で、南弘氏を中心として他會派の政友系と策應し、濱口内閣追擊の任に當るであらう。

四

各派の狀勢は斯くの如くであるから第五十九議會における貴族院は幾多の諸問題に對して論戰の中心は避けられないのであるが、財界の問題は具體的に金融恐慌來でもなき以上政府を追及しても水掛論に終るので、一部では景氣恢復の決議案を出して政府に積極政策を强要する必要があるとの意見もあるが、實現は困難と見てよい。次に中小產業者並に失業者救濟は前議會で建議案を可決したに拘らず政府の施設は不徹底極まるから更に決議案で政府にその實行を迫る必要があるとなし、政友系の如きは前說の手まへ再び決議案をものにしなければならないと暗躍してゐるけれども、一部には政府も

相當努力 して居るに拘らず、一向その效果も擧らずこれ以上追究して見た處で結局政府を困らせに終るばかりだとの意見も行はれて居る。けれども現内閣の經濟政策には反感も多く、政友系の暗躍如何によつては或はものにならないとも限らない。勞働組合法案に對しては火曜會、同成會および公正會の一部に贊成論者あるも、實業家出身勅選議員多額議員の全部は反對であり、研究會の如きも贊否兩論に分れてゐるから今のところ何うなるか豫想はつかないが、社會局原案に修正を加へない限り無事通過はまづ疑問とせねばなるまい。豫算案に就ては可成りの缺陷あり、民政系議員の間にも不滿の聲がある位であるから相當政友系に攻撃されるであらうが先議權を有する衆議院を絶對多數で通過して來た以上否決する事は出來ないとしても、警告位は政府も覺悟しなくてはなるまい。

五

國民負擔の輕減、補充計畫、外交問題、米價下落問題、豫算案勞働組合法案等は相當攻擊の火の手はあがつても政府の致命傷とはなるまい故に問題は財界、中小產業者並に失業者救濟、勞働組合法などにかゝるのであつて、財界問題や中小產業者並に失業者救濟について決議でも通れば自然濱口内閣の社會政策、經濟政策の不備を表明する事となり

次の議會 に臨むに際しては當然の勢ひとして政策の變更をするか乃至政府自ら責任をとるかの方法に出なければならないといふ事になる。又勞働組合法案が否決される事になれば、安達内相の面目丸潰れとなり、現内閣に大きな傷がつく事となるし、何れにせよ、此の三問題に對する貴族院の空氣は今のところ曖昧模糊として居り、休會明けの議會において政府が如何なる說明をするか、政友系の暗躍がどこまで延びるかに依つて決せられる狀態で、極めてデリケートな性質を有してゐるだけに政民兩派の活躍も相當面白い場面を展開する事となるであらう

瑞光の雪も供物や新年祭　巖谷小波

松竹……石井柏亭畫伯筆

井上藏相筆

江木鐵相筆

議會の中心問題
減稅＝募債＝理蕃＝小橋問題等 大論題實に山積

今期議會は民政黨内閣が組閣以來最初に臨む本會議であり、その主義主張を遂行せんとするところの政策を、初めて國民に問はんとする重要なる意義を有する議會である。

偶々濱口首相不時の遭難事件突發して現内閣の前途並に今期議會の前途に一抹の暗影を投じた觀あるも、幸にして首相その後の經過は經過頗る良好であつて休會明けの議會には或は登院可能と見られて居るが、萬一首相の登院なほ久しきを要するに於ては、唯さへ重要諸問題を控へた今期議會は一大波瀾を惹起するに難くない。

主な議會提案 今期議會に政府が提出せんとする諸法案中の主なるものとしては先づ

一、勞働組合法案
一、勞働者災害扶助法案
一、船員保險法案

等の社會立法をはじめ、年齡低下を本旨とする衆議院議員選擧法改正案、女子に對して公民としての權利義務を附與せんとする婦人公民權案、その他衞生組合法案、著作法改正案、治罪法改正案等重要法案山積の形であつて個々の法案を通過せしめんとするにも多大の努力を必要とするが、更に現内閣の緊縮政策遂行の昭和六年度節約豫算總額十四億四千八百萬圓の編成方針に對して野黨政友會の前藏相三土忠造君の如きは早くも『憲法發布以來の[illegible]豫算である』と痛駁してゐるに鑑みても、野黨財政通を以て任ずる

面々から の痛烈な質問の發せらるべきは今より豫期し得べく、又一般財界の不況對策と失業對策、糸價問題即ち米價對策、中小商工業者救濟對策等をはじめ、軍縮條約案が樞府において可決されたる理由『軍縮剩余金を以て國民負擔の輕減に充當する』てふ聲明に基づいての海軍補充計畫問題並に減稅案、乃至は無罪拘禁者に對する刑事補償法案、或は三千萬圓程度の失業公債發行案等列擧し來れば、いはゆる今期議會の中心問題はその大部分が財政關係の諸問題と見るべきであらう。

『減稅問題』就中減稅案に對しては大藏省原案によれば地租、營業收益稅、砂糖消費稅、織物消費稅の四稅目を限定し、初年度約九百萬圓の減稅をなさんとするにあるが、政府が常に誇を大にして公約せる減稅額が國民に一千萬圓にも滿たざることは國民をして如何に失望せしめたか、且つその限定された稅目によつて果して國民負擔の輕減が均霑されるか否かについてもこれまた野黨の猛擊は免れない

『募債問題』政府はその組閣當初にて非募債主義を高唱し、これが實施を中央地方共に强調しつゝあつたに拘らず今や日一日と深刻化しつゝある失業者增加の窮情に迫られ遂に三千萬圓程度の公債發行を餘儀なくされたが、一方新豫算に於ては人件費五分の天引に依つて失業者增加の逆境を見るに至り、現内閣の政策が如何に矛盾不徹底であるかを暴露せるものとして貴族院方面にかても非難の聲漸やく高まり、野黨側亦相呼應して追擊の資となさんとしてゐる

『蕃社暴動』昨秋十月二十七日臺灣に於て起つた蕃社の暴動事件は、その原因が駐在警察官の不正行爲、郡守の更迭、理蕃政策の缺陷等統治當局に種々手落のあつた結果斯かる不祥事を發生し可憐なる小學生を始め同胞多數の犧牲者を出すに至つたものとしてこれまた今期議會にかて相當猛烈なる質問の發せらるゝは必定である

小橋問題 前文相小橋一太氏に係はる越後鐵道、山手急行事件の判決言渡しは昨臘下旬にありていよく氏は有罪と決定したが、去る五十七および五十八議會における濱口首相と犬養政友會總裁の論戰において、濱口首相は『小橋問題に關し判決の下らざる以前に自己の責任を明かにすることは出來ぬ』と閣僚奏薦の責任に對し言質を與へてゐるので、小橋氏の判決言渡を見た以上當然その道義上の責任論はまた新にむし返さるゝに相違なく、政友會はこれを有力な政府攻擊材料として首相の引責辭職を主張するといへばこれが革めて今期議會の大論題となることは事明の理であつて、他の諸問題の如く理論一點張りばかりで行けぬだけに他介で與黨が無造作に絶對多數の威力を以てこれを押し切り得るか？或はまた濱口首相の生一本の氣質が如何にこれを處置するか？その成行如何は蓋し注目すべきことであらう

政治は力か？

往年原敬氏は議會に絶對多數の與黨を得て『政治は力なり』と極度の專制振りを試みたが、因果はめぐる小車の譬そのまゝに、與黨二百六十余名の支持の下に立つた現内閣の其堂々たる陣容に對し『逆境にあつての戰ひこそ、我黨の最も得意とする處である』と强がりつゝある犬養總裁が手勢僅かに百六十余名を引具して敵の牙城に肉薄し、どの程度まで鋒鋩を與へ得るか、但しは一顆の奇襲その功を奏して見事現内閣の死命を制するに至るか？蓋し興味はかゝつて一に犬養將軍の采配如何につながれてゐる。所詮政治は水ものと言はれてゐる。原敬氏の如き力の政治は到底今日において實現さるべき筈なく、多數黨必ずしも枕を高くして安眠し得らるゝ時代ではない。同時に少數黨といへどもその政策が國民大衆の支持する處となれば、輿論の力によつて最後の勝利を獲得することも必ずしも不可能ではなからう。一陽來復と共に朝野兩黨の攻防作戰は機漸く熟した。早春、日比谷原頭に展開さるゝ第五十九議會の幕はやがておもむろに切つて落されんとしてゐる。

金解禁後の一年間（中）
金融界＝貿易及物價から 事業界＝證券界を顧みて さて今年は如何に

金融界

政府は解禁後從來の方針を改め、正貨を一切保有せず、日本銀行をして正貨の維持、爲替相場の調節に任ぜしむる事とし、政府の海外拂は爲替決濟に依る事となつた結果、日本銀行は在外正貨の減少をおもんぱかり、これが拂下げに種々の手心を加へ抑制するの方法を採つたゝめ解禁實施當時横濱正金銀行の爲替建相場はこの正金建値に比し半ポイント乃至一ポイント方下廻はるの奇現象を呈した。しかして當時日銀および外國銀行當事者間に正貨現送點に關し所見をことにし、日銀側は對米四十九ドル四分の一と稱せるに拘らず、外銀側は同八分の三乃至二分の一を主張し

外銀側は このレートを標準として爲替手形（在外正貨）の拂下げを要求し、若しこれに應ぜぬ時は正貨現送を賭すと威嚇的態度に出でゝその目的を達したといふことである。しかも日銀は内地銀行に對しては飽まで爲替の拂下げを惜んだゝめ、内地銀行は何れも輸入資金に窮するの有樣であつた。從つて貿易商は悉く輸入爲替の取極めには内地銀行を捨てゝ外銀に頼る外はなかつたので、外銀の利益は蓋し莫大なるものがあつたらうといはれてゐる。斯くて外銀の攻擊は日に深り深りに好レートの爲替拂下げを要求して止まぬので日銀當局も遂にこれを拒絶するに至つたゝめ、一月二十一日ナショナルシチー銀行が最初の一千五十萬圓を現送、次でオランダ系各銀行、香港、上海銀行其他が

續々現送（内地保險信託會社等の海外投資をも含む）を敢行したのである。内地銀行はモーラルサポートを申合せた關係上現送を見合せてゐたが生絲輸出手形は正金一手に買取られ、しかも日銀の在外正貨も減少を告げ爲替拂下げが圓滑に行はれぬため遂に正貨現送を決意し、一月末三井銀行の現送をトップとして、住友銀行、三井信託、三菱銀行等相次で現送を行つた。斯くて九月に入るや海軍々縮條約批准問題が樞密院において紛議され、樞府對政府の關係一時非常に險惡に陷り、政變來を豫想され、しかも次の政友會内閣は金輸出再禁止、新平價解禁斷行等の流言さへ生み、内地當業者中利に敏きものは、政友會

内閣出現 により當然圓價の暴落を來すものと夢想し、外國銀行に外貨預金をなすものさへあり、外國銀行もまた頻りに圓賣り、ドル買の態度を採つた。これに對して正金は極力外銀筋に賣應じたので爲替相場は對米四十九ドル十六分の七を最高に、同八分の三を最低として好調を維持したのは幸ひであつた。しかしながら正金としては在外資金減少の折柄外銀に賣應じたため勢ひ在外資金補充の必要上及輸入期における決濟資金準備の爲正貨現送の必要に迫られ九月二十六日其第一回現送を開始し、十一月十四日までに六千萬圓の

正貨現送 を行つたのである。内外銀行の正貨現送高を示せば次の如し（單位千圓）

	上期	下期
▲内地銀行		
横濱正金銀行	―	六〇,〇〇〇
三井銀行	三二,〇〇〇	―
三菱銀行	二六,〇〇〇	―
住友銀行	三六,〇〇〇	―
三井信託	四,〇〇〇	―
▲外國銀行		
ナショナルシチー	九七,〇〇〇	九二,三〇〇
和蘭系銀行	三一,九〇〇	六,四〇〇
香港上海銀行	一七,九〇〇	二,〇〇〇
其の他	一三,七〇〇	四,〇〇〇
合計	二五八,五〇〇	一六四,七〇〇

右の如く正貨の海外流出は日銀兌換券發行高の收縮を伴ひ、同時に金融市場における遊資の減退となつた。從つて金利は引締りを示し一月中の東京市中金利はコールレート最低四厘五毛乃至五厘であつたのが二月、三月にはすでに一錢以下は消滅し、八月に至つては一錢五毛を唱ふるに至つた、一方割引利率も一月中一錢一厘であつたのが六月には一錢二厘となつた しかしてこの間において

各銀行は 貸出を嚴選したゝめ金利は益々昂騰の大勢にあつたが、東京協定銀が九月三日當座貸越日步二厘下げの一錢八厘以上と決議し即時實行したのと、日本銀行が十月六日突如一律に一厘方金利引下げを發表した事が有力なる原因となつて、市場金利は漸落步調を辿り、コール・レートの如き九月以來八厘五毛と低下し久しく保合を續け年末接近と共に例年の如く一時的局勢を見た。

賀正

南陽商 泰成號 主 金秉秀 電話一七一番

米穀商 精米業 崔柄基 電話一四〇番

朝鮮慶北浦項鹽濱町 海產物 米穀 肥料 雜穀 姜國元商店 電話三十一番 電略（カ）又ハ（カン）

ライジングサン石油株式會社指定販賣店 安田生命保險株式會社代理店 三井物產會社大阪保險部代理店 慶北浦項仲町 金溥商店 電話三三番

米穀商 北垣又次郎 電話一六四番

浦項榮町 長谷川商店 電話一三九番

大阪朝日新聞販賣所 書籍 雜誌 文房具 印章 村田太陽堂 浦項本町 電話二二三番

浦項仲町 日用品 食料品 雜貨 山崎永七 電話二六六番

浦項川口町 運送 倉庫業 増野熊雄 電話一二三番

浦項 大内醬油店 電話一〇五番

迎日麵子製造株式會社 電話一七七番

慶尚北道迎日郡浦項 浦項釀造株式會社 電話一三三番

浦項仲町 株式會社 拓產社 電話一二二番

料理 森内文平

浦項稅關出張所 浦項水產製品檢査所

迎日漁業組合 理事 瀬戸甲一

全羅南道廳 食堂員一同

光州金曜會

全羅南道 潭陽郡廳職員一同

松汀里 米穀商組合

光州公立中等學校 校長一同

光州郡廳職員一同

清酒菊日光釀造元 光州酒造株式會社

全南光州 大興電氣株式會社 光州支店 電話一一番

光州不動町 會席御料理 春乃家 電話一二一番

光州名產甘柿純良山羊乳 全羅南道光州院村里 サクマ農園 主 佐久間陸 電話四六番

全羅南道立光州醫院 院長 平瀬亨三 外職員一同

昭和六年々頭所感
相當多難を思はしむ
◇…豫め覺悟をして善處せんかな

財務局長 林繁藏

歳は改まつてここに目出度き昭和六年の新春を迎ふるを得ましたことはまことに御慶に堪ねない次第であります

多事多端 かへりみますると吾々財務の仕事に從事致しまする者にとりましては、昭和五年は極めて多事多端な一年でありました。まづ財政方面におきましては御承知の通り昨年は衆議院の解散を見ましたため昭和五年度朝鮮總督府特別會計豫算も不成立に歸しましたが、實行豫算に計上する事を得なかつた米穀倉庫に對する補助、鮮人職業紹介および授産機關の充實等必要なる新規事項の經費は總選擧後の特別議會に全部追加豫算として提出し、その協賛を經ましたので新規施設は遺憾なくこれを遂行し得ることゝなつたのであります。然し乍ら金解禁直後の財界不況に當面致しまして自然事業官廳等の收入にも多大の影響をおよぼすに至りましたると、一面公私經濟の緊縮に關する中央政府の政策に順應し、且一般物價の下落をも考慮しまして年度中途においても更に節約緊縮の實行豫算を編成致しまして收支の均衡を維持し、本府財政の基礎を確保するに遺憾なきを期したのであります しかして來る四月一日より施行する昭和六年度豫算につきましては中央政府の方針に適應すると共に本府財政の現況に鑑みまして依然緊縮方針により編成するの已むなき狀勢に立到つたのでありますが、朝鮮の特殊事情については深く考慮致しまして出來得る限り財源を按配して新規事項の施設を計り、以て現下の需要に應ずることに努めたのであります。斯く年を通じ豫算事務に腿頭し來つた事はその例を見ないのであります。

金融方面 次に金融方面におきましては國を擧げての關心事でありました金解禁は昨年初頭において斷行せられましたが、これが爲に吾が金融界の基調に根本的變化の起りつゝあるは否み難き事實であります。しかして金解禁の善後措置としての政府の緊縮政策並に民間の經濟節約は一般的に需要の減退を惹起し、又他方偶々襲ひ來りました世界的不況に際せられ、物價は下落の一途を辿り、生産も亦た減少し、爲に吾が朝鮮の財界も委縮不振の狀を呈し、金融界また緩慢ならざるを得なかつたのであります財界不況の一斷面として鮮內各種銀行の預金並に貸出金の狀況を見まするに、預金總額は漸減の勢を示し、鮮銀、殖銀等の特殊銀行の貸出金の增加を除けば、普通銀行の貸出は總體においては寧ろ減少の趨勢を呈してゐるのであります。更に昨年十月一日より實施せられた郵便貯金利率の引下、同十一日の鮮銀同業者貸出金利の引下等は當該の事情を物語つてゐるものであります。昨年米作は內鮮を通じ未曾有の豐作でありまして、一般物價の下落に加へて米價は暴落し、一般農民の蒙る打擊、農村購買力の減退はまことに著しきものがあつたのでありましてこれが應急的對策として約三百萬石を鮮內に留保することゝし鮮內のあらゆる機關を總動員して貯藏保管に當らしむることゝしたのであります、しかしてこれに對する金融は性質上低利なる資金を必要としますから、大藏省預金部低利資金を以てこれに振り當てることゝし、着々實行の途上にあるのであります。

銀行合同の趨勢は內地のみならず吾が朝鮮においても看取せらるゝのであります。新銀行令の趣旨亦に現下の如き不況時に鑑み、基礎鞏固にして健全なる銀行の發展はまことに望ましいことでありまして、この意味において銀行合同の氣運は喜ぶべき現象であつて、その一端として昨年十月下旬慶一銀行と慶尚共立銀行の合同を見、又十一月下旬には韓一銀行と湖西銀行との間に合併假契約が結ばれ遠からず合併が實現すること丶思ひます。然し乍ら銀行の合同に因つて地方金融の梗塞を來すが如き事は極力避くべきでありまして、銀行合同に對しては從來常に右の方針を採り來つたのでありますが將來においてもこれを持續するは勿論のことであります。

金融組合 に就て數年來實行し來りました組合および支所の增設並に組合員增容計畫は着々進行してゐるのでありまして、昨年來における組合員は前年末に比し約七萬人の增加を見、また組合員の貯蓄と貸出限度の擴張とによつて財界不況の折にも拘らず約一千六百萬圓の增加を示してゐるのでありましてその進歩發達の跡はまことに著しいものがあります 組合機能の發揮は先ず第一に最大多數の組合員を抱擁するにありまするが故に差當りの增員計畫とは村落組合の組合員數を農家總世帶數の三割二分即ち約八十九萬五千に達せしめんとし昭和八年度にこれが完成を期してゐるのであります、また九月下旬には釜山において金融組合地方大會を開催して大いに組合精神の普及發揚を圖し十月下旬には金融組合界の心氣一轉の意味を以て聯合會理事の大更迭を行つたのであります 朝鮮における金融制度體系の完備、金融機關の整備改善については常に注意を怠らなかつたのでありますが普通銀行および貯蓄銀行並に金融組合については新方策を實施し居る効果を、實施後日尚淺き今日において云爲するはその機を得たものでないかも知れませぬが少くも朝鮮における金融制度の體系に一段の進歩改善を加へ得たことゝ信ずるのであります。尚昨年中金融制度調査委員の合同を屢次開催致しまして信託業および無盡業に關する調査および方策を考究し、すでに大體の成案を得たのであります。內地において法制上信託制度の實施を見てより未だ十年を經過せず、朝鮮においては信託關係の法規は全然缺如してゐるのでありまして、今新に信託制度を實施して信託業に對し法的制約を加ふるに至つた曉において、信託會社が朝鮮の財界において如何なる程度に活動するかは誠に興味ある問題であります。庶民金融機關の機能の擴充は朝鮮を擧げて高唱せられてゐるのでありますが、財界の前途なほ見極がつかず中小商工業者の窮迫いよいよ加はつて行く今日、無盡業關係法規の改正は重要なる意義を持つと考へますのでありまするから新年匆々、金融制度調査會を開催致しまして信託業および無盡業に關する調査及方策に就いてその審議を進むる運びでありますから今年中には信託關係法規の制定並に無盡關係法規の改正を實現し得る運びに至るものと信ずるのであります

税務方面 におきましては先年租税體系の整備改善に關して引續き調査研究を續けたのでありますが昨年におきましては先づ市街地及准市街地の地價改正に關する諸般の手配を完了致しまして收益税の組織を整備し一面營業税に施行したる營業税に就きまして經濟事情の變遷並に社會政策的見地より特殊營業及小營業者に對する負擔緩和等に關し調査研究を遂げまたその他の税種についても調査の歩を進めたのであります。然れどもこれ等は未だ枝葉の問題でありまして、租税體系の確立につきましては幾多の懸案があるのであります。これ等につきましては將來更に愼重に調査研究を遂げ順を逐ふて實現を期したいと思ふのであります。

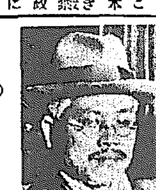
近年租税公課の徴收成績は著しく良好となり地租營業税酒税等の主要租税は殆んど納期內完納の良績を收めつゝあるのであります。特に昨年におきましては財界不況に加ふるに米價崩落のため徴收上著しき困難に遭遇したのでありますが幸に納税者の理解とその局に當るものゝ努力により徴收を完ふし國庫の需要に應ずるを得ましたことはまことに御同慶に堪へぬ所であります。併し乍ら徴收方法の改善等に就きましては更に一層一般民衆の理解を基礎とし地方の實狀に應じて各種の方法を講ずるの必要を感じてゐる次第であります、殊に官廳の直接徴税の外地方改良機關並納税組合等の活動により獲る効果は極めて大なるものある事痛感してゐる次第であります。納税の本義を鼓吹して税務の理解を求め納税の改善に資する事に就ては廣く一般の御助力を切に希ふ次第であります。

貿易方面 最後に貿易に就きましては昨年（十一月迄）における朝鮮の對外貿易は輸出二千二百九十萬余圓輸入八千三百二十一萬余圓であつて入超六千三十一萬余圓を示しこれを前年同期に對比しますと輸出一千百十七萬余圓（二割三分）輸入一千七百十一萬余圓（一割七分）の減少を告げてゐるのであります。斯る貿易の衰退は內鮮共通の現象で右は世界的不況並に物價の低落を反映してゐる次第でありますが特に朝鮮と致しましては主要貿易國たる支那における銀價の崩落、輸入關税の金建制採用陸境特惠關税廢止、相つぐ動亂等の各種不利なる事情が競合したの他方において公私經濟の節約緊縮が貿易の上に著しく影響をおよぼした結果と考へられます 次に對內地貿易（十一月迄）の情勢を一瞥しますると移出二億一千二百五十一萬余圓移入二億五千八百二十三萬余圓でありまして入超四千五百七十二萬余圓を算し前年同期と比較しますと移出五千七百四十八萬余圓（二割一分）移入三千三百二十五萬余圓（一割一分）の減退を告げ貿易の權衡において前年に比し二千四百二十三萬余圓の入超增大を呈してゐるのであります。而して移出貿易の減少は一般的不況と米穀の出廻遲延に基づくものでありますが移入に在つては國營鐵道用炭の對策に因り石炭の輸入減に代つて內地炭の移入著しく增加し外油輸入減の反面における內地油の移入增加毛織物の移入減少の一面に同品の移入增を示せる等入增を見たものもありましたが、一方昨秋農産物の不作に加へ穀價暴落は地方購買力を衰微せしめかつ緊縮政策に伴ふ消費の節約と相俟つて主要品の大半は年初來不況の趨勢をたどり就中綿絲布の減少をはじめ事業用品その他概して減少を告げたので減退の大勢は如何とも致し難かつたのであります

金解禁 これを要するに昨年は金解禁並に世界的不況に伴ひ財界の蒙つた打撃が相當深刻なりしことは爭ひ難き事實でありまして、昨年はこれが善後處置に終始したと申しても過言ではないと考へるのであります。しかして財界の前途が果して好轉するや否やについては各人各樣の觀察が行はれて居るのでありますが、前途はなほ遼遠として遺憾ながら樂觀を許さない現狀であります。只朝鮮においては昨年の豐作を受けて本年は相當緩和的立直を期待し得る狀況にありながら穀價安のため依然艱境を脫し得ない立場にあると考へられますから徹底なる緊縮の必要は勿論ないものと思はれますが不相變、相當多難なる年であることを豫め覺悟して善く善處の必要ありと存ずるのであります

昭和六年を迎へて
新なる努力を以て 向上の一路に邁進

遞信局長 山本犀藏



多難なりし昭和五年を送りてこゝに昭和第六の新春を迎へるに當り、新なる努力を以て向上の一路に邁進せねばならぬことを痛感する。

○

昨年は中央政府の財政緊縮の方針を受けて、經費の節約を圖ること〻なり、新規事業等の遂行には少からず制限を受けた爲に、十分なる施設をなすことが出來なかつたことは、誠に遺憾に堪へない次第であるが、斯かる財政上の苦境にありながら、なほ多少の新規施設をなし得ないでもなかつた。その二三の重なるものにつき、こゝに回顧をして見たいと思ふ。

通信事業 昨年中において遞信事業の方面については、電話規則中に改正を爲して定時通話の制度を設けて電話通話疏通上の利便を圖り、電話料金に關する土地の區別の六階級を九階級に改めて電話使用料負擔の公平を期し、加入申込後相當時日を經過して加入申込の取消を爲したる者の納付したる加入登記料を還付し得るの制度を認めて加入申込者の不利益を免除し、その他豫約新聞通話の利用の狀況に鑑みて豫約通話料金二割の低減を爲して利用者の利益を企圖し、なほ短期の豫約新聞通話の制度をも設けて選擧の演習等の如き場合における新聞、通信者の利用に供した。その他無線電信電話の發達利用に備へる爲に、無線通信の混信防遏上必要と認むる無線電信、電話の使用の制限、高周波電流を使用して通信信號を爲す施設に對する無線電信法の準用、公衆通信または軍事上必要なる通信におよぼす障碍防止の爲にする高周波電流を發する電氣的設備の變更等に對する費用の補償等について法令の整備を爲した。なほ釜山に無線電信局を設置して昨年七月一日から事務を開始したが、同局は主として航空機との連絡の通信を爲すものであつて、これが朝鮮における航空用無線電信局の嚆矢である。

○

師團演習 昨年十月に京城附近において擧行せられた師團對抗演習は朝鮮においては未曾有の壯擧であつたが、該演習に際しては極めて短時間に臨時的電信電話の建設工事をなすとか、或は郵便物の特別配達方法を講ずる等の諸施設を爲すの必要があつた。通信機關は非常災害等の場合に機宜の措置を取り得るやう平素から訓練して置かなければならぬのであるが斯く大規模の演習においてこれが好箇の機會を得、訓練上幾多の好參考資料を得たことは、誠に喜びに堪へない所である。

○

郵便貯金 の利率は從來普通貯金年五分四毛、据置貯金年五分二厘八毛といふことになつてゐたが、市場金利低落の趨勢に照しおよび大藏省における低金利政策に順應し、內地郵便貯金の利率引下の例に倣ひ、利率六厘方の引下を行ふこと丶爲した。即ち普通貯金年四分四厘四毛、据置貯金四分六厘八毛といふ利率に改め十月一日からこれを實施した。

簡易保險 （國營生命保險）は昨年十月一日で事業開始滿一年に達した譯であるが、本事業は創始以來豫想外の好成績を納め昨年十一月末において契約件數二十一萬七千件余、その保險金額四千三百二十一萬余圓といふ巨額に達してゐる。尙この狀態を以て進むならば朝鮮においては保險思想は案外早く普及することと思はれる。今契約件數の內鮮人別の割合を見ると內地人四割八分、朝鮮人五割一分であつて、これなどは全く豫想以上の良結果を示してゐるものである。この間における支拂の狀況を見ると、件數千百九十四件、その支拂金額は四萬五千三百圓余に達し、その中契約締結後二年以內に拘らず全額支拂のものは即ち傷疾病又は災害に因る死亡に對する支拂のみにても百三十五件その金額三萬四千八百圓余に達しその中には過般の間島における共産事件勃發の際の死亡者、昨夏における江原道方面の風水害の際の死亡者等に對する保險金の支拂が包含せられてゐる。斯の如くして簡易生命保險の本旨が漸次發揮せられて行くことと思ふ。

海上運輸 昨年中における海上運輸の業績は運賃低下等の爲幾分劣しくなかつたけれども、近時の海運業界は著しく發達して來つて、船舶、機關の構造等は增大して且複雜となつて來、又航路も擴張されて來たので內地、臺灣等の間に海技免狀互認の途を拓き得る法令の根據だけはできることとなり朝鮮船舶職員令中の改正をなし、これに伴ひ他の關係法令にも殆んど根本的な改正を加へて昨年五月十日からこれを實施した。なかんづく船舶職員試驗規程の改正によつて遞信局長の認可した講習會において所定の講習を卒りたる者については船舶職員試驗の中の二、三についての受驗資格を與へたが、これは非常に有益であつて昨年中に全南、慶南、慶北等においては講習會が開催せられ、何れのものも相當良好の成績を納めたと思ふ。なほ朝鮮の南西岸、殊に多島海方面は航海上の危險が多く、航海業者からも屢々同方面に燈臺を設置せられたき旨の陳情があつたので、差向當右島に燈臺を建設することゝして七月より工事に着手し十一月にその竣功を見るに至つた。本年一月初旬より點燈する筈であるがこの建設は多少とも航海者に取つて利便を與へること丶思ふが、朝鮮の航路標識は十分なる普及を見てをらないのを少からず遺憾に思ふ次第である。

電氣事業 はまことに緩漫な發達をなしてゐる。これは朝鮮の爲めに遺憾に堪へない所である。電氣料金の如きも、その公益的性質に鑑み、當局においては業績の許す限りこれを引下げしめるの方針に出てゐるため、比年料金は低下の趨勢にあるのである。昨年中に料金改訂期に達した京城電氣株式會社、釜山における朝鮮ガス電氣株式會社等卅餘社に對しては全部相當の値下げをなさしめた。尙朝鮮における電力統制の根本方針を樹立し電氣に關する重要事項を調査審議せしめるために朝鮮總督の諮問機關として朝鮮電氣事業調査會が組織せられ昨年十月にその第一回の會議が開かれ朝鮮における將來の發電計畫および送電網計畫に關する根本方針の確立ともいふべき重要案に關する答申が出來たことは特に注目に値するものと信ずる。

內鮮滿 連絡の定期航空は航空開始以來每週三往復を施行してをつたのであるが、昨年四月からはこれを倍加して每週六往復となしたので、內鮮滿の旅行には少からず便益が與へられることゝなつた譯である。尙前述の通り釜山に航空用無線電信局を設置したので、航空機の往來上の安全率が高くなつたことゝ思ふ。民間航空事業を助長する爲、昨年中においては三月に京城釜山間、九月には新義州中江鎭間、十二月には京城咸興間の試驗飛行をなさしめたが、その成績が何れも良好であつたことは朝鮮航空界の爲にその前途を祝する次第である。

重要施設 昨年中における重要施設は大略以上の通りであるが本年においても通信機關の整備、簡易保險の普及、海運事業の助長、電力統制計畫の遂行、航空設備の完實等そのなすべきことが多くあると思ふ。豫算の許す範圍において成るべく多くこれ等の事項を實現せしめたいと希望してゐる。

「迎日」 伊東鬱浦畫伯筆

年頭所感

法務局長 深澤新一郎

こゝに昭和六年の新春を迎へて聖壽の無窮、皇室の御繁榮を慶賀し奉り國民擧つて泰平を謳歌するを得ますのは、洵に歡喜の極みであります

さきに民事訴訟の進捗並に裁判の適正を期するため朝鮮民事令の改正あり、その施行後一年餘の實績に徴しますると改正法令が改正の精神に即して良好に運用せられつゝあることを看取することを得ますのは欣快に堪へない所であります 今改正法令實施の日たる昭和四年十月一日前後一年間の民事訴訟事件の總受理件數に對する既濟件數未濟件數の比率を見ますれば、第一審においては改正法令施行前既濟八割八步一厘、未濟一割一步九厘なりしに改正法令施行後においては既濟九割一步五厘、未濟八步五厘、第二審においては改正法令施行前既濟六割七步三厘、未濟三割二步八厘なりしに改正法令施行後においては既濟七割九步六厘、未濟二割四厘にして民事令改正後における訴訟審理の進捗の跡頗るいちじるしきものあるをみるのであります

審理裁判もとより拙速を避けねばなりませぬが、巧遲必ずしも司法の威信を保持する所以でありませぬ。審理に當然要すべき時日の經過はまことに已むを得ずとするもこれに一年又はそれ以上の年月を徒過する如きことありましては如何に公正なる裁判を致しましても私權の伸張保護を完ふすることは出來ないのであります

幸に改正法令施行後の實績は上敍の如く極めて良好であります。これ偏に在鮮在野の法曹各位並に一般國民において法令改正の精神を理解せられ、相協力して司法事務の遂行に盡されたる結果であると信ずるのであります。吾々司法當局としては將來此勢ひを以て邁進し、倍々改正されてこの成果を收むることに努め度いと思ふのであります。惟ふに訴訟は權利を不法に主張し、義務を不當にまぬかれんとするため提起せらるゝこともありまするが、又當事者が全く善意にて相互見解を異にし、或は惡感情等の原因にて提起せらるゝこと少くないのであります。斯の如き原因に基づく爭ひは原因を闡明致しますれば自然解決せらるべく、敢て裁判所の判決をまつ迄もないのであります。民事訴訟法は當事者は如何なる民事上の爭ひでも裁判所に出頭して和解の申し立を爲し得べく、しかして和解の面前において爲したる和解は判決と同一の効力を有する旨を規定し、以て此方法による爭ひの解決を奬勵致してをります。爭ひを判決手續きによりて決するよりは和解手續きによりて圓滿に終了せしむるとは當事者は勿論、國家の立場よりみましても時間勞力および費用を節減して多大なる利益を齎すことゝなるのみならず、當事者間にその親族間に感情の融和を來し、將來の禍根を一掃し得ることゝなり、まことに交誼和協の精神と隣保協結の美風を發揮する所以と思ふのであります。右は例寄の事ではありませぬ特に一般の考慮を希ひ度く敢て一言附加したる次第であります

刑事々件につき最近五箇年間の統計に基づき犯罪の趨勢をみまするに罪質により多少の增減はありますが、概して漸增の傾向を示してをります。昭和四年はその前年に比し刑法犯において九、〇三六件を增し、特別法犯において二七六件を減じ、總計において八、七六〇件の增加を見ましたが各罪質に別けて申せば阿片に關する罪五八件、公務執行妨害罪一〇〇件殺人罪一〇一件、窃盜罪五二八九件、詐欺恐喝橫領の罪二、一七六件增加したのであります。これ等の罪の增加は社會組織の複雜化即ち文化の向上發達に伴ふ自然的現象であると見るのが至當だと思ひますが、しかし一面近頃の深刻なる一般不況の世相に原因することも否み難き所であります

右の內强窃盜犯の約半數は前科者でありまして、これらの者の中には眞に前罪を悔ひ、善にかへらうと努力してゐてもその過去の事實が暴露せられたため人の信用を失ひ、職を奪はれ遂に自暴自棄の結果再び罪を犯すに至つたものもありますが、その多くは盜癖が習性となつてしまつた者であります。これらの盜犯の常習者に對し相當期間社會より隔離し、改過遷善の機會を多からしむると同時に世人をして兇惡なる盜犯に對する正當防衛權を遲疑するとなく行使し得せしむる爲、昨年九月十日盜犯等の防止および處分に關する法律が施行せらるゝことゝなつたのでありますが、その後斯の法律の適用を受けたものも二、三件無いでもありませぬが、何分實施後日なほ淺く、いまだその效果について、述ぶるの時機に達してをりませぬ

次に刑事統計において著しく目を惹くのは治安維持法並に大正八年制令第七號違反の罪が年を逐つて增加し行くことであり、この犯罪の增加は民族主義の運動に共鳴する眼が漸次少きを加ふるに至つたためでありますが、殊に深憂に堪へませぬのはこの種の危險思想が青年學徒の間に浸潤し、刑に觸るゝもの丶多いことであります。さきに共産主義者等の指導に基づく光州學生の騷擾事件勃發し、全鮮各地においてこの種事件發生し次いで同盟休學事件並にこれに伴ふ各種の刑事事件續出致しましたが、幸に當該官憲等の努力に依り程なくこの終熄を見ました。もとより單純なる同盟休校といふが如きはその是非は別として學校當局の措置に委ぬるを妥當と致しますけれども、これ等の事件の經過を檢閲致しまするに盟休その他の學校騷動等の背後には民族運動なり赤化運動者の策動の糸を引いてゐる者が多いのであります、のみならず、その學生等の中には前後の思慮もなく單に附和雷動したといふに過ぎないものもありますが併し一方には主義的秘密結社に加盟し、思想運動に從事してゐるものも尠くないのであります。斯る學生の存在、一般學生の氣風を紊制するにおいてまた國民思想上治安維持の上より致しまして實に捨て置き難い寒心事といはねばなりませぬ。もとより學生が學問の研究を致しますことは自由でありますが、この自由は放縱なることを意味しませぬ。また學理の研究は自由でありますが必ずしも發表の自由を許さぬ。研究の樣式についてもまた無制限に自由なることを得ぬのであります、研究が研究室內における論辯質疑に止まる時は格別、研究室より一步街頭に出づれば其處には法の制裁があるのであります。况んやこれを實踐に移すべく學生等相會同して結社し討議を重ねることは決して許されぬのであります。斯る犯罪は國家の休戚に繫るものでありますから他の何物を差措いてもこれが取締を十分にし斯る風潮を矯正し防止することに力を致さねばなりません。世上には國民の思想善導といふことが大いに叫ばれてをり、種々なる施設もあり方策も講ぜられつゝある樣でありますが併し實際上はかゝる風潮を統制し指導すべき權威あるものはまだ確立してゐない樣であります。故に差向き斯る思想を抑壓矯正するの方法としては甚だ好ましからざることのようではありますが、司法の働きに須つより外ないかと思ふのであります。然し乍ら司法必ずしも萬能ではありませぬ。司法權運用に直接關與する者が幾何程全力を傾倒致しましても理解ある國民の援助なくしては到底完全なる効果を擧げ得ないのでありますから、一般各位はこの大切なる青少年の保護を當局者のみに委ねず、進んで自ら彼等を嚴實に保護し斯る誘惑に陷らざる樣監督を周到にすると同時に、その善導に意を致さんか、司法權の運用と相まつて青年學徒をして忠良なる臣民たらしむることに一段の御盡力を希望して止まない次第であります

謹賀新年

釜山商業會議所
會頭 香椎源太郎

釜山學校組合評議員（順不同）
安河內千吉 吉崎宗一 中村力太郎
池田綠次郎 水野儀一 竹下隆平
安武千代吉 立石直作 竹內統
山本榮吉 栗林新吉 中山喜市
山田信吉 町田貞一 川島喜彙
外埋藤吉

慶尚南道金融組合聯合會
同 金融組合

釜山海運業組合（いろは順）
朝鮮郵船株式會社釜山支店
朝鮮汽船株式會社
朝鮮運送株式會社釜山支店
大阪商船株式會社釜山支店
株式會社大池回漕店
丸海運送株式會社
株式會社釜山商船組
國際通運株式會社釜山支店
株式會社澤山兄弟商會

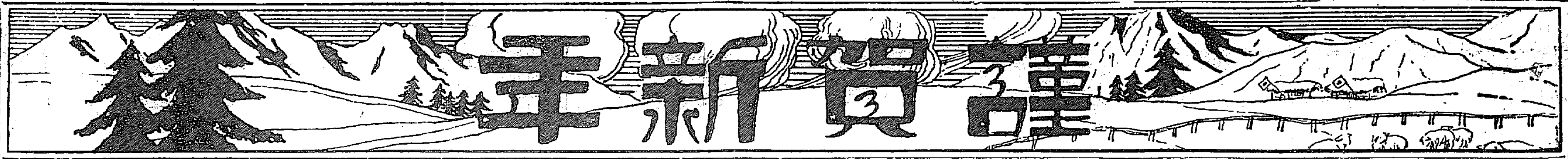
釜山大廳町 小佐助一郎

釜山辨天町 西洋雜貨 運動具 栗山商店

釜山倉友會
朝鮮興業株式會社倉庫部
朝鮮米穀倉庫釜山支店
大池商店倉庫部
朝鮮商業銀行倉庫部

釜山金曜會

慶尚南道廳
食堂員一同



扶餘警察署 高原圓治郎
扶餘郡恩山 恩山精米所
扶餘郡恩山 田中松好
扶餘面事務所
扶餘郡扶餘 和田正知
扶餘郡扶餘 土木建築請負業 相良福見
扶餘郡扶餘 本多勇盛
扶餘郡扶餘 松屋旅館
舒川郡吉山 金宗坤
舒川郡水西里 荒木旅館
忠南新昌川 雜貨商 井上清
論山郡連山 吉山醫院
論山郡連山 金用鎭
湖南線 論山麴子株式會社
湖南線論山 山田謙吉
湖南線江景 艀船合資組合 電話六一番
江景川協議會員 (イロハ順) 岩崎勝一 伊賀倭次 谷口豊太郎 辻川元助 小島又助 高相俊 鄭潤海 廣瀨健次郎

湖南線江景大和町 吉村農具製造販賣店
湖南線論山 論山繁榮會
湖南線江景大和町 木村三星商會
湖南線江景錦町 荒卷醬油釀造所
湖南線江景中町 辯護士 落合右助 電話七〇番
江景警察署 川上松五郎
湖南線論山驛前 論山運輸自動車會社 電話六二番 合資會社 論 合同運送店 電話一一番
舒川 各官公署 各産業團體
論山川改修期成會 江景支部長 坂上富藏

論山穀物商組合
湖南線論山畜産商事株式會社 藤本忠次
南朝鮮電氣株式會社 江景出張所
湖南線江景 土曜會
湖南線江景 村口精米所 電話一七七番
湖南線江景堀町 高橋精米所
朝鮮江景 米穀貿易 ㋑ 林精米所 林秀輔 電話三七番 電略ハ(又)ハヤシ
湖南線江景公立學校 教員團
湖南線江景錦町 道評議員 西島寅吉
江景學校組合 會議員

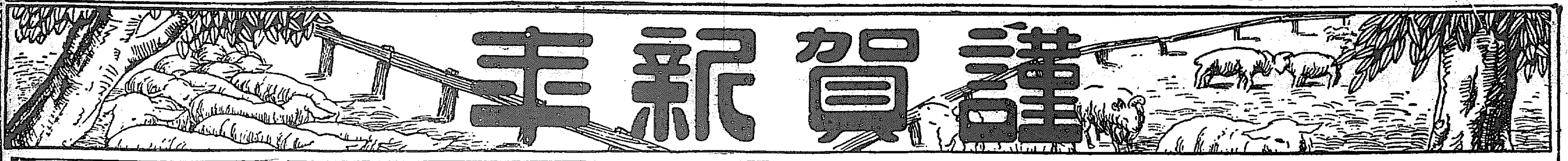
扶餘恩山郵便所 三宅近治郎
扶餘郡恩山 長谷部恒三
扶餘郡窺岩里 細目精米所 窺岩里郵便所
扶餘郡 金融組合團
扶餘麴子製造合資會社
扶餘郡 朝鮮酒造組合
扶餘郡鴻山 臼井百太郎
湖南線論山精米所 林田久仁男
論山郡 朝鮮酒造組合
湖南線江景 國武農場 江景支部
湖南線東拓江景出張所 原田茂雄
湖南線江景 櫻井機械店 電話一三九番
湖南線江景西町 鶴田洋服店

忠淸南道廳內 食堂員一同
保寧郡 熊川公立普通學校 職員一同
保寧郡熊川 石村次太郎
論山郡陽村郵便所 下村平次郎
論山郡陽村栗堤耕作組合 金元立雄
論山小學校教員團 宮脇運造
湖南線論山 武藤精米所
湖南線論山 つるや旅館 電話二九番
湖南線江景 菅野精米所
湖南線江景 野口精米所 電話一八九番
湖南線 江景穀物委託販賣組合 電話一三〇番
湖南線江景中町 肥料・石油 官鹽 岩正商店 電話一五八番
湖南線江景驛前 湖南自動車部 金甲鳳
湖南線江景 錦江運輸株式會社
江景郵便局 久芳英馬
論山郡公立普通學校 校長一同
扶餘郡公立學校 校長一同
忠淸南道穀物商組合聯合會 江景穀物協會 忠淸南道穀物檢査所江景支所
論山郡農會 論山畜産同業組合 論山郡森林組合

井邑金曜會 好見清一 井上亥藏 藤井近之助
裡里醫師會
全羅北道益山郡廳 職員一同
裡里工友會
裡里木曜會
全州 齋藤勤
全州七曜會
全州遊廓組合
全州土木組合
全州建築組合
全州煙草專賣支局 食堂員
全羅北道廳 食堂員

大邱府廳 職員一同
慶北甘浦港 漁業 大秀組 渡井口清太郎
大邱府大和町 米穀商 芳德商會 島田金四郎 電話長一七・九八九番
慶北安東庚午會
慶北榮州郡 官公吏一同
大邱專賣支局 職員一同
慶北甘浦港 漁業 井筒組 桝本貞二
慶尙北道立大邱醫院 職員一同

外金剛溫井里 金剛山釀酒組合
外金剛溫井里 御旅館 萬龍閣 ラジユーウム溫泉內湯
元山水曜會
元山官署懇話會
江原道 江陵木曜會
元山土曜會



京城帝國大學總長 志賀潔
京城帝國大學法文學部長 藤塚鄰
京城帝國大學醫學部長 高楠榮
京城帝國大學附屬病院長 廣田康

建築設計監督 京城工務所
京城府初音町二〇九番地 電話本局一六九三番
所主 細江爲太郎
顧問 岩井長三郎

日本生命ビルデング
京城窯業株式會社
電話本局二三二〇 三一六一番

京城府元町一丁目百番地
クームヒン株式會社
電話龍山三七〇 四二四番

朝鮮運輸計算株式會社
京城古市町四十三番地

明治製菓株式會社
京城出張所賣店

銀松亭

京城本町二丁目
合資會社 日章堂時計店
電話本局八七六番 振替京城一六九三二番

京城櫻井町二丁目 各種高級印刷
合資會社 野津集文堂
電話本局一七二四番

京城本町
紙御商 望戸力一商店
電話本局一八〇五番 振替京城二四二九番

京城本町二丁目
みのや呉服店
電話本局八八八番

京城本町二丁目
森啓商店
電話本局四三〇番

京城御成町七六
坂田商會
京城出張所 小山セツ子
電話本局四四三番

京城雑貨社
松本武正

京城長谷川町
合名會社 近澤商店
電話本局二二七五番 長電話本局九四三番 振替京城二二五三番

京城本町二丁目
造花 むすめや
電話本局四一四番

京城南山町
京城美術倶樂部
電話本局二三六〇番

朝鮮書籍印刷株式會社

株式會社伊藤商行
朝鮮計器株式會社

京城府岡崎町五三
淺川巖次
電話龍山一一七三番

京城府岡崎町七番地
株式會社 北陸組出張所
電話龍山一一七九番

濱本佐之助

京城府竹添町二丁目
杉山製作所
電光一八一・五四五番

合名會社 盛陽社

京城府岡崎町
胚芽米元祖 龍山精米所
電話龍山三六番

三幸洋行
山名松太郎
京城府岡崎町七〇

京城府明治町二丁目
興業無盡株式會社
電話本局三三八二番

京城內地人辯護士會

諸官衙 銀行會社 御用達
軸物額面屏風卷物畫帖調製所
（彩）
合名會社 水原彩光堂
京城櫻井町二ノ一八一
電話本局二三九七番
振替京城一七五〇三番

京城府若草町
西本組京城支店
電話本局一九五六番

エナーヂー根療法祖元
原田竜芳
出張所 京城旭町二丁目七五

京城府黄金町一丁目
堀田鐵工所
所主 増井治郎吉
電話本局一五七八番

京城酒類卸商組合（イロハ順）

京城府公平洞
河野本店
電話光化門三四五番

京城府明治町二丁目
山邑酒造會社支店
電話本局八四九 一四五四番

京城府本町二丁目
山本酒店
電話本局五七五番

京城府本町二丁目一
株式會社 前田商店
電話本局一三七 七六四番

京城府長谷川町
株式會社 増田屋支店
電話本局三五四番 七九六番

京城府黄金町四丁目一六九
片岡印刷所
片岡龜次郎
電話本局三七三番

京城府南大門通三丁目
株式會社 後藤風雲堂
京城出張所
長電話本局三八八五番
長電話本局二五七一番

京城府長谷川町
第一生命保險相互會社
朝鮮支部長 渡邊退助
電話本局一三三四番

京城府南大門通三丁目
共同火災保險株式會社
京城出張所
長電話本局一七七八番

京城府本町二丁目
子供服 婦人服 專門
ギンザ洋裝店
電話本局三四四四番

京城府明治町二丁目（本町明治屋横入）
京城美粧院
屋敷コト
電話本局三六五二番
京城府本町一丁目（三越横）
京城美粧院支部
主任 柴田のぶ
電話本局二三七四番

京城左官業組合

京城府驛前（朝鮮神宮表參道入口）
笑福旅館
電話本局一五五一 三六一番

京城府本町二丁目
㊄ 岩本漆器店
電話本局一一七四番
振替京城三 五九番

朝鮮一のオモチヤ屋
子供屋
京城本町ビルヂング
電話本局二一四八番

京城金物商組合

戊辰會

京城府南大門通五丁目
國際通運株式會社
朝鮮支部
支部長 竹井三郎
電話本局三二一〇番

京城府本町三丁目
阿部藥房
電話本局四八七 四二六六番

營業課目
高級化粧石鹸
絹毛用石鹸
各種洗濯石鹸
洗濯曹達
醫藥用石鹸
各種工業用石鹸
油脂類並各種工業藥品

京城府岡崎町一四番地
朝日石鹸株式會社
電話龍山二二六四番

京城日報

其三

文壇の展望

―一九三一年を迎へて―

一、混沌たる文壇の俯瞰圖

當今の文壇を大まかに色分けしてブルジョア藝術派とプロレタリア藝術派の二つに區別する事は殆ど常識のやうになつてゐる。が實際はしかし左樣に單純ではない。ブルジョア派でもいはゆる既成大家の一群と新感覺派から進化（？）して來た新興藝術派―その中にもまた新藝術派、ナンセンス派、エロ、グロ、モダーン等々、文字通り百花繚亂であり、また別にブルジョア派全體を通じての大衆作家といふのがあつて、これがジャアナリズムの寵兒となり、徒におして多くの讀者をもち物質的にも甚だ恵まれてゐるといつた有樣。プロレタリア派に至つては、まさに戰國亂離時代であつてより以上の混沌さであり先々流轉の相を示してゐる。

これはすでに二三年前から現はれた文壇の相であるが、昨年に至つてそれは一層對立が尖鋭化し、混沌を深め、流轉を繁くしてゐる。この情勢を持ち越す一九三一年の我文壇はどうなる？、秋の空のやうに變る文壇のそれを的確に指摘する事はできぬにしても、大凡の見透しはつかぬ事もなからう

小說を書かざる小說家、それはまさに當今の既成大家の別名である何が彼等をさうさせたか？、ひと口にいへば、時代がすでに彼等の小說を要求しなくなつたからである。逆にいへば彼等のイデオロギーは、もはや時代をリードする力を喪失してしまつたからである。たゞ彼等にはその永い文筆生活から得た『技術』だけが遺されてゐる。この『技術』と曾て得た『文名』が、必ずしも藝術的内容を必要としない通俗小說に筆を染めさせる。そこをまた機を見るに敏なジャーナリズム業者が捉まへる。既成大家の藝術創作の絶縁と、その通俗作家への轉化はかくして行はれ、一旦こゝに墮ちた以上その頽落の速度はますます早められ、曾ての彼等の輝ける作品はたゞ明治大正年間に遺された古典として、また彼等はその作家として、その限りにおいてその榮譽は永久に輝くであらう。一九三一年の彼等の辿る途は、その過程としての一年であるに過ぎないであらう。

二、古典として殘る既成大家

つひこの頃まで『中央公論』『改造』『新潮』等の創作欄にその特別號などには、たとへ五六頁のものでも顔だけはだしてゐた既成大家が、この頃はいひ合したやうに姿をかくしてしまつた。昨年などは、わづかに島崎藤村氏が『中央公論』に長篇『夜明け前』をぼつ〳〵出した位だが、それとても大して讀者の興味を惹いたとは思はれない。その他の大家も時々は顔を見せはしたが、それもほんの添へ物の感じでとんと大向ふの喝采を博するに至らない。たまに谷崎潤一郎、佐藤春夫など花形の名前が新聞に出たと思ふと、それは創作ではなくて文字通り事實物語りの『細君讓渡事件』だつたりしただけである。同樣に文壇の大御所をもつて任ぜらる菊池寛氏なども、『税金不納問題』や、廣津和郎氏の小說『女給』のモデル問題などでジアナリスチックな聲名を謳はれたにすぎない。たゞこれら既成作家に殆んど共通な傾向は彼等が、曾ては非藝術として排擊した通俗小說に筆を染めてゐるといふ事實である。毎月の婦人雜誌や『キング』『朝日』等々の通俗雜誌の廣告には彼等の誰かゞ名前を出してゐない月はない。だが、これは既成大家の自ら恥とするところでないであらうこと、嘗ての主張および作品から見て肯かれる事である。

三、時代の寵兒 新興藝術派

同じブルジョア派に屬するといはれてゐるが、前の古典的既成作家の沒落とは反對に飽くまでも藝術のための藝術を主唱して、時代の尖端に華々しく跳躍する若き騎士の一群、それはいはゆる新興藝術派の一群である。その前陣は曾ての新感覺派であるが、プロレタリア派との對立が際立つてくるに從ひ片岡鐵兵氏などが脱出して左翼に轉換した頃から、藝術至上の理論を振りかざし、左翼の鋭い攻擊の矢面てに立つて刃向つた。『形式と内容』の問題について既成大家が鼈居の如く口をつぐんでゐる時、第一線に立つて勇敢に『形式論』のために鬪つたのもこの一派であつた。この派には中村武羅夫氏なども加つて十三人俱樂部が結成され、現在プロレタリア派に對して尖く對立してゐる。この一群の若き騎士達は既成大家が自然主義的、乃至は心境的であるのとは逆つて、飽くまでも時代の――嚴密には現今の資本主義社會のあらゆる現象に對して目を閉ぢることなく、それをあるがまゝに攝取しやうとする。機械生産の上に花咲くすべての文化的現象を題材とする從て この一群 に階級鬪爭を描き工場を 描く作家と共に エロ、グロ、ナンセンスの作家が包含されてゐるのは當然で、その意味ではたしかに進歩的な一群でありその帶びてゐる近代的色調はまた時代の一面を表象してゐる。それだけに作品がその層の讀者に要求され受入れられるのは當然で、龍膽寺雄、淺原六朗、久野豐彦、中村正常、阿部知二、横光利一等々のこの派に屬する作家の作品が昨年において斷然市場を壓倒したのも所以がある。恐らくは、本年においても依然としてこの若き騎士達の活躍は續くであらう。

然し、この一派には何となし一沫の不安がまつはつてゐる。それは彼らが藝術を政治的に利用することを拒否するその主張がすでに示す如く、その題材においてはあらゆる文化的現象を取扱ふにも拘らず、そこに、それを批判し、これを次の發展へ導からうとする意識即ちイデオロギーの缺如してゐることである。もと〳〵新興藝術派發生の社會的根據は、資本主義第三期におけるもはや歴史的に發展の見込なき階級の絶望的な生活心理に根ざしてゐる。それは或時代がその歴史的生命を終らうとする最後の時期に爛漫として咲出でたあやしくも美しい文化の花であるそこに鋼のやうな意志がある筈がない。この一派が藝術至上を唱ふる點においては共通してゐるが、そこに一貫した指導理論なく、同じ新興藝術派とはいふもの〻、仔細にそれを見る時はさまざまな主張と傾向とを有する作家が雜居してゐる事實はそれが一つの主張の下に結成したものでなく左翼プロレタリア作家に對立するために、それに屬せざる無所屬の一群が集つたに過ぎないとも見られる。そこにすでにこの一派の歴史的限界性がある。だが然し當面の事實としては資本主義文化に沿うてこの一群の活躍はなほ續くであらう。

四、七花八裂のプロレタリア派

右翼文壇の混沌にもまして動きの多いのはプロレタリア派である こゝでは文字通りにその『歴史的發展』が行はれ、分裂がくりかへされてゐる。しかもその分裂は常に『理論鬪爭』を契機として行はれることは右翼文壇のそれとは著しく異つてゐる點である。その發生の當初においては『理論鬪爭』は專らブルジョア文壇に向けられてゐたが、最近に至つてはプロレタリア派の陣營内部でのお互の『理論鬪爭』の投げ合ひが顯著となつてきた。これはこの派が無産階級解放運動の情勢に支配される當然の傾向であるが、實際運動のそれを如實に反映してまさに七花八裂である。

この派のうち最も注目すべき昨年の出來事は『戰旗』に根據を置く最左翼、全日本無産者藝術團體協議會（ナップ）が今迄の漠然としたプロレタリア藝術の主張から更に進んで××主義藝術への主張を明かにしたことである。從來文藝戰線に根據を置く勞農藝術家聯盟との區別はその理論鬪爭の鎬々しさに拘らず、歸するところはつきりしなかつたが、ナップが××主義藝術への主張を明らかにしてからこの兩者の區別も判然とした これによつてナップは××黨を支持する態度を明かにし、それ以外の藝術は社會民主々義藝術であつて眞のプロレタリア藝術ではないと主張しだした。これに對して文戰派は依然として、それは社會の客觀的情勢を無視した左翼小兒病だといつて反駁してゐるが、その文戰派からは昨年夏例の代作問題から平林たい子、長谷川進氏等が脱退し、續いて十一月上旬には黒島傳治、今野大力、宗十三郎、高野次郎、伊藤貞助、山内謙吾氏等を初め文戰劇場員等を合せて約五十名の少壯組の脱退を見て再度の大分裂を來し、殘るは前田河廣一郎、葉山嘉樹、金子文洋、青野季吉氏等の幹部組だけとなつた。

これ等の脱退組は本年から雜誌『プロレタリア』を創刊してこれに據るといふことであるが、脱退した文戰劇場員は、ナップに屬する左翼劇場と提携することになつたことが示す如く、いづれも右翼へ走らずに最左翼へ近づいてゆくことは本年の左翼文壇の指向を示唆するものであらう。これは勞農黨の解消問題が意味するものと軌を一にしてゐるもので左翼文壇における解消問題である。つまり社會情勢の尖鋭化につれて一般文壇人も右翼ブルジョア派に屬さない限り、社會民主主義か、××主義かいづれかに所屬を分明にすべく清算を促される必然的傾向であつて今後の左翼文壇は、内部の清算を行ひつゝ、またもとのブルジョア文壇との對立抗爭を鋭くすると共に政治的にも尖鋭な武器として磨かれてゆくであらう。プロレタリア文藝に關する限りでは本年のそれは××主義藝術が活躍となりヘゲモニーを握るであらう。

五、共同製作問題の發展

社會の物質的生産の樣式が、機械の高度化と資本の集中化によつて、個人的勞働から、集團的勞働への傾向を促すにつれて、從來純粹に個人的生産であるとされてゐた文藝にも共同生産の形式が主張され議論されてきた。然しその實現は却々容易でなかつたが、遂に昨年に至つて二つの作品が發表されたことは特記すべきことであつた。その一は藝術派に屬する淺原六朗、久野豐彦、龍膽寺雄三氏の共同製作小說『一九三〇年』であり、一つは、『文戰責任制作』と銘打つた同派の鶴田知也、青木壯一郎、里村欣三三氏共同製作小說『工場閉鎖』である。殊に前者は作者の三氏が、工場、ダンスホール、ブルジョアのクラブ等に手分けして入り込み仔細に調査、蒐集した材料を持ちよつて從來の手工業的手法に代るにメカニズム的手法によつて組み立てたといふ念入りなものであつたが、後者と共に作品としての出來榮は餘り香しくなく、八方から論難された。然しこれは藝術生産形式の革命的な試みであるだけに、最初から好い作品を望むのは無理であらう。かゝる失敗にもかゝはらず、その勇敢な實驗は確かに何らかの進歩であるには違ひない。

藝術派、文戰派が共同製作といふに對してナップは『組織的生産』といふ言葉を使つて前兩者を批判し、獨自の主張をしてゐるがいまだその實踐はなく、たゞ大宅壯一氏をリーダーとする綱領の集團勞働が行はれた程度にすぎないが、この派でも愈よ本年はいはゆる『組織的生産』を發表すべく目下計畫中との事であるから、この派の共同製作小說も本年初頭において見られる事であらう。これに次いで文戰、藝術派等でも更に第二次の作品を製作發表するであらうから、共同製作は―ナップに從へば文藝の組織的生産は―本年に入つていよ〳〵旺んな實驗期に入り文壇の中心的問題として賑はふであらう。

斯くて本年の文壇は、既成大家の頽落とその古典化、乃至通俗化これに代る藝術派の活躍、プロレタリア派内部の清算―社會民主々義藝術と××主義藝術の對立尖鋭化、そして形式の問題としては藝術派以下の新興勢力の間にとりあげられた集團的生産の實驗期として展望される。

鷺娘　田中良畫伯筆

文壇事件に觸れて 昭和五年の回顧

【宮地嘉六】

ちよつとした事件でも直ぐ大げさに書き立てゝ紙面を賑はすといふのがヂャーナリズムの常だ。それで何か事があると、あること無いこと一緒にして、如何にもそのすべてが本當のやうに書いて讀者を喜ばさうとする。これは何か刺戟の強いものでなければガッテンしない讀者を向ふに廻しての新聞雜誌としてみれば當然でもあらうが、馬鹿々々しいことのやうでもある。昨年における文壇人の事件などもその例に洩れなかつたであらう。

昨年の文壇事件といへば、先づ文士仲間から坊さんが二人出來たと、谷崎潤一郎氏對佐藤春夫君、それと千代子夫人の戀愛のもつれさては菊池寛君の武勇傳式事件などが深く印象に殘されてゐると思はれる。特に谷崎君對佐藤君のことなどは一頁大に書き立てられて大きなセンセーションをなげてしまつた。何といつてもエロ全盛の現代としては仕方のない話だ。

◇

元來谷崎君と佐藤君に對する千代子夫人の關係は文壇周知の事實であつたとはいひながらそれが本氣にいはゆる讓渡問題を起してしまつたのは、新聞雜誌の社會面を賑はすには十分の價値があつたに相違ない。それは有島武郎氏と波多野秋子の情死、德田秋聲氏對山田順子、更に芥川龍之介君の自殺以後における文壇事件といつてよからう。何としても有島氏や德田氏等のそれとこの場合とは、筋書が一寸變つてゐるので一般の興味を煽つたものであらう。

◇

妙なもので長年連れ添つた女房に對しても、何か爭ひのきつかけにこいつ奴逃げて行つて呉れると良い——等と度し難い考へを起し、女房いじめをする例はよくあるものだ。又大事にしてゐるものでも自分の尊敬してゐる人とか、親い友達などには惜みなく與へてしまふ場合が多い。或ひは友達の着物をば借着するのと、古着屋にぶら下つてゐた、誰の物ともわからぬのを着るのとでは大分感じが違ふから考へると知人同志の三角關係などは、手輕に解決してしまふものではないかとも考へられぬこともあるまい。谷崎氏や佐藤君等の氣持ちはどこにあるか知らぬが、現在の自分——女房がなくて二人の幼兒を抱へてゐる立場からは些か手輕すぎるやうな氣がするし、勿體ない話だとも考へられた。失禮かもしれぬが、佐藤君と千代子夫人に幸あれ……と余計なことを祈つておく。

◇

宮島資夫と今東光の兩君が出家したのは當時その理由を發表されたやうに、それ〴〵目的があつてのことで、決して世をはかなんだ結果でないことはよくわかるが、自分としては出家するとがよいか惡いかなど考へても見ない。自分の場合にはまだ出家するやうな氣持がない。何といつても自分はまだ髮を剃つても本當の坊主になり切れぬものが殘つてゐる。いはゆる俗生活の魅力を斷絶する氣持ちがなほ殘つてゐる。しかも自分は作家として、直接に社會相に觸れることを望んでゐる。明けて四十六歳、或ひは歳甲斐ないと笑はれるかも知れないが、まだこれでも氣が若いから坊主などにはなれつこない。尤も坊主にも昔から大黒がある世の中だから、異性に對することとは心配無用ではあるが。

◇

菊池君が中央公論の編輯長をなぐつた爲めにつひに訴訟の手續きまで行つてしまつた。これも些か騷ぎが大きくし過ぎたやうに思つた。何分菊池君は瀧田樗陰君時代の中央公論とは仲がよかつたが、島中君が代つてから、原稿の問題で仲が割れてしまつた。毆打事件は新聞雜誌に發表されたやうに、廣津和郎君の『女給』のモデルからだといふが、廣津君もさすがに困つたことであらう。菊池君はあれでゐてなか〳〵神經質だから、遂に感情をおさへ切れなかつたのであらう。

◇

なほ小さな事件や噂はいろ〳〵あつたと思ふが、自分の心に應へる程のものを他に記憶しない。自分の小事件としては文壇人荒しの詐欺漢のために、金五圓をせしめられた上に、人から預かつてゐた原稿をさらはれたりして、自らの愚鈍の淺さを見せつけられたりしたが、これらはちよい〳〵ある事件であるから、問題にもならない。先づこんなところで、昭和六年の新春、文壇諸賢の健康を祈つておく（完）

羊に關する 歌と俳句

召波の句其他

犂鳥散士

元來羊といふ動物が日本の原産でないからであらう。歌や俳句の中に羊を題材にしたものは極めて少ない。藤原時代の舶來品には、印度あたりの模樣らしい羊の圖のついたものがあるが、寶物の羊は恐らく渡來してゐなかつたらうと思はれる。江戸時代とても或ひはゐなかつたが、居ても見た者は少なかつたに相違ない。それ程過去の日本人には羊は縁が遠かつた。

◇

さて俳句のうちに羊を題材にしたものを探すと誠に寥々たる有樣で、芭蕉のものにもその周圍の句にも發見されない。尤も綿密に探したら、或ひはあるかも知れぬ。只召波の句集『春泥句集』に

羊煮て兵をねぎらふ霜夜哉

といふ句がある。召波は蕪村の門人とされてゐるが、蕪村は彼を門人以上に待遇してゐたといふ。さすがにこの句は寫し得て妙といひたい妙味を持つてゐる。勿論それは題詠に相違ないが、霜夜に羊を煮る——羹を作る氣持はなか〳〵よい。『ねぎらふ』といふ語があるから、戰勝の宴かに思はれるが若しこれを決戰を控へてのふるまひと見るならば、悲壯勇猛さの感じとなるであらう。杜甫の『後出塞』の詩に

朝進東門營　暮上河陽橋
落日照大旗　馬鳴風蕭々
平沙列萬幕　部伍各見招
中天懸明月　令嚴夜寂寥
悲笳數聲動　壯士慘不驕
借問大將誰　恐是霍嫖姚

この詩と右の句とは何處か似た點がある。句の方は勿論くつろいだ氣持であるが、この詩は整々たる陣中の氣魄を傳へる。

◇

右の句に依つて連想されるのは鹿兒島のいはゆる健兒舍で、現在でも舊暦十二月十四日即ち赤穂義士討入の夜を記念し、試膽會をしたり、從て義士傳の輪讀をする。そして『羹のどろ〳〵』と稱して羹を黒砂糖で煮込んだものを啜る風習がある。時に霰の降ることがあつて更に心の緊張を加へる。

◇

召波の句とても羊そのものではないが、几董には未の字を句に入れたのがある。

夕立やけふの歩みも未申

これは井華集に出てゐる。なほこの句には

今日もまた午の貝こそ吹きつなれ年の歩み近づきならし

といふ歌が前詞として出てゐる。この歌は『花鳥餘情』にある。几董は共に私淑し、蕪村とは特に深い關係があつた。

◇

一茶の『おらが春』中の挿繪に右の歌にある『羊の歩み』といふ言葉が記してある。即ち一茶らしい飄逸な筆致で僧形の男（恐らく一茶自身の姿だらう）に飛脚を描いて、飛脚がヤツコリヤサとやつて來て『何時デゴザリマセウナムシ』とたづねたのに對し僧の答へに『ヒツジノ歩ミ近ヅキテ候』とある。『羊の歩み』といふ語は、摩訶摩耶經の

……如旃陀羅驅羊就屠所　歩々近死地　人命疾於是……

に起つたもので、歩みに從つて死地に近づく、無常の例に用ひ、光陰の流れの意味にも用ひられてゐる。この語は源氏物語や保元物語にも出てゐる。『羊の歩み』を歌ふ、こんな歌には、烏丸光廣卿（寛永十五年逝去）の歌

とゞまらぬ羊の歩み廻り來ていく夜月の影になれけん

といふのがある。右に記した『今日もまた』の歌と共によく『羊の歩み』の語の參考にされてゐる。他に江戸時代の歌や俳句にあるかも知れないが。（完）

新年文藝

情歌

題『塗下駄』　本社編輯局選

一等（賞）　京城御成町七六　九月庵朝花

氷柱しづくに深まる雪の羽子にざわめく塗ぽくり

二等（賞）　京城仁寺洞一四　東出茂雄

光る塗下駄初日を拜む影も二見の夫婦岩

三等（賞）　平壤府若松町一　齋藤利治

はげた塗下駄氣にかけないで妻が働く今朝の春

秀逸　京城　松田重野

ぬり下駄くわへた子狗を追へば憎くや鶴に笑ふ梅　京城　岸溪舟

羽子を打つ娘に朱塗の下駄の音も目出度い御代の春　鎭南浦　高岡かしく

塗下駄春からころと春が待たれぬ長廊下　鎭南浦　元木阿闍坊

迎ふめり下駄小鈴の音も明けて嬉しい初歩き　京城　稲本玄治

模樣散らしの塗下駄はいて春日眩しノ羽根をつく

佳作

おもひ秘めたこの塗下駄をそつと抱いてみた私　康津　木谷哲子

靴と塗下駄もつれて連れて露地に消へ込む雪の宵　京城　小川柳子

列ぶ塗下駄春華やかに今宵賑はふかるた會　京城　原木若柳

雪の宵闇チラリと露路に消ねた素足の朱塗下駄　群山　蒲生紅ン坊

塗下駄一つも貴方の汗とそつとしまつて履く妾　鳥致院　米良ちかよし

塗つた下駄とてあのよろこびよ抱いて眠るやら夢にまで　山口縣　安永青水

塗す誠にはく塗り下駄は雪ふ撫の一本道　京城　有賀流東

今日は塗下駄戰服脱いで娘らしさのお正月　京城　宮崎榮扇子

可愛あの兒に塗下駄はかせ歩く妾が眺めたい　新幕　金丸朝子

好いた模樣の塗下駄貰ふて今日は嬉しい禮廻り　鎭南浦　安本柳眼

對の塗下駄可愛や舞妓お湯の戻りの廻り道　鎭南浦　菊川數代

雪の山道踏む塗下駄の晴れて嬉しき朝詣り　京城　古川照波

年は二八かなまめく下駄の色は朱塗りの今朝の春　京城　鹿野草人

吉の辻占塗下駄穿いても一度出て見る門の松　東京　市原光風

赤い帶して塗下駄穿いて年に一度のお元日　京城　松崎喜榮

若しやと思つて下駄箱見れば桐と並べて塗の下駄　東京　高木草常

逢ひに急く身へ又ぬり下駄がこつて氣になる小砂利道　東京　豐川琴女

靴と塗下駄いつもの角で別れを月に笑はれて　東京　古家滿

逢へぬ夜道の塗下駄寒く袖も涙にしめる道　京城　小山なみ路

羽子をつく娘の駈け出す度にあら塗下駄音てる　京畿　照崎河太郎

賀正

光州公立第二普通學校長　村井勝彌　外職員一同

全南光州旭町　土木建築請負業　花田裕年

全南光州本町二丁目　渡部洋服店　振替口座京城一二四〇　電話二一七番　電略（ワ）又ハ（ワタ）

全南潭陽郵便所長　松田方仲

全南光州本町一丁目　播磨商店　自動車部分品部　電話五三三番

光州公立尋常高等小學校長　安田保則　外職員一同

光州公立普通學校長　三浦勇

光州警察署長　片山浪藏　外職員一同

全南光州　土木建築請負業　關本久一

全南光州　土木建築請負業　大江重春　電話二三三番

全南光州　土木建築請負業　坪井盛太　電話二一番

全南光州面協議員　光州消防組頭　藤本一二郎

全南光州本町四丁目　内外製藥卸商　金牌受領珍藥無類おこし　三河屋　渡會庄作　電話四五六番

全南光州　木材及建築材料商　下垣春吉　電話四九番

光州南町　清酒藥酒燒酎釀造　長迫釀造場

全南光州黄金町　土木請負業　境野角藏

南鮮電氣株式會社井邑出張所長　中園知芳

全州大正町二丁目　食料雜貨　川島商店　電話二三四番

光州大和町　福井屋旅館　電話七〇番

全南光州　旅館料理　東雲旅館

全南光州仲町　萬屋旅館

南鮮モーターズ商會　坂本由藏

シボレー自動車販賣店　光州酒造株式會社　自動車部

全南光州本町一丁目　木材及建築材料商　三木岩虎　電話三七八番

全南明治町　村田寫眞館　電話五四四番

全南松汀里　瀬戸醫院

委託品取扱業　光州水産株式會社

大陽光線學會　光州治療院　主　前田實　全南光州錦町　電話（公園）六二二番

全南光州　吉田醬油釀造所　電話五九番

全南光州錦町　土木建築請負業　石矢春吉

諸官衙會社、東拓會社、京城印刷指定　桝屋旅館　全南羅州　電話一〇番

全南金融組合理事　嶋田秀保　電話四一番

長門旅館　湖南線羅州本町　電話八番

羅州郵便所長　村上九平

全南羅州　銘酒東洋正宗　鹽屋釀造場　電話三一番

全南羅州大正町　湯澤政五郎

羅州學校組合管理者　緒方龍太郎　全南羅州北門町　電話一〇二番

各種肥料、農機具、製叺、石油商　奥村伴作商店　全南羅州　電話六六番

全南羅州　酒造業　西川釀造場　電話二四番

千賀製絲場　羅州本町　電話五五番

羅州　御料理　春日亭　主　李在元

全南羅州　製絲代理業　司法代書業　森田勝次　電話二三番

全南　南平公立普通學校　職員一同

全羅南道　南平公立尋常高等小學校　職員一同

全南桑苗組合聯合會長　全南南平消防組頭　山田安平　振替京城六五七〇番

羅州公立尋常高等小學校　職員一同　電話三九番

羅州邑長　小坂要次郎

全南榮山浦　米穀肥料商　森崎胖一商店　電話三九番

全南羅州多侍面　道評議員　多侍面長　林炳元

全南榮山浦　大江旅館　電話十七番

洋品雜貨織物布木　羅州協同商會　電話六五番　電略（トウ）又（〇トウ）

全南羅州松月里　果樹栽培　河野農場　電話一〇三番　振替京城四四八〇番

全南羅州本町　雜貨石油肥料機械商　宮嶋源太郎商店　電話二十七番　振替釜山一九一一

全南羅州　食料品諸雜貨商　安田生命保險株式會社代理店　岡富五郎商店　電話四五番

全南羅州　吳服、雜貨、食料品　朝鮮火災保險代理店　澤井商店　電話三〇番

全南羅州　自轉車商　千代田火災保險株式會社代理店　小平芳男商店

全南榮山浦　醫院長　紺藤良次

全南榮山浦　御料理　仕出し　日の出　外藝妓一同　電話六一番

全南羅州榮山浦亭内　妓生　照葉、駒兵　外一同　電話一二番

全南羅州邑　老安面　職員一同

ざくろ　村上美里畫伯筆

農民よ！緬羊を飼へ!!
—農林省畜産課—

今年は 未の年、羊といふに因んで我が國の今後に、大いに發展を要する緬羊業について說明し樣と思ふ。これは國勢の一端として忽かせに出來ぬ事なのである。元來我が國は昔から衣類に絹、麻が主として用ひられ、毛織物が殆んど用ひられず又牛豚肉等を常食としなかつた關係上、馬以外の畜産は全く行はれなかつたのである。處が明治維新前後から毛織物を常用する樣になり、

現在に おいては莫大なる需要を見つゝあるにもかゝはらず、日本にては緬羊業は殆んど行はれず、羊毛およびその製品は外國に仰いでゐる狀態にある。今最近四年間における羊毛と製品の輸入額を見るに、

年次	輸入	輸出
昭和元年	一三二四四	一六六四
二年	一〇〇九一	一五九九
三年	一七六九九	六〇三
四年	一四二一九	三二〇

右の輸入は大部分が濠洲からの輸入が多く、次に英本國、ドイツ、オランダ、佛國、アルゼンチン、支那といふ順になつてゐる

右には 羊毛製品を輸出する額を參考として示してあるが斯くの如く輸入額に比し微々たるものでしかない次に諸外國においてはどれだけの緬羊が飼はれてゐるかといふと

國名	頭數
英本國	二四五二六〇〇〇
濠洲	九八七七九〇〇〇
新西蘭	二七〇〇〇〇〇〇
合衆國	四七一七一〇〇〇
アルゼンチン	三八〇〇〇〇〇〇
南阿聯邦	三五九七八〇〇〇
露(推定)	七〇〇〇〇〇〇〇
亞細亞露	四六〇〇〇〇〇〇
支那	三六〇〇〇〇〇〇
印度	二三一一〇〇〇〇
佛國	一〇五〇〇〇〇〇
獨逸	三六三六〇〇〇
その他	—
總計	六八九三三二〇〇〇

さて我が國には何頭の緬羊がゐるかといふと、最近の調査によれば

年次	頭數
大正七年末	四五四六
昭和四年末	二〇七八四

といふ數である。これではてんで諸外國との比較にならない。しかし兎に角これによつて昭和四年の羊毛消費量十四萬五千四百八十ポンドをあげてゐる。

ところ で我が日本における羊毛の利用率はどの位であるかといふと

年次	一人當り平均
大正三年—七年	〇、九八
八年—十二年	一、八六
十三年—昭和三年	二、六〇

といふ狀態にある。これによれば五ケ年毎に丁度倍宛の利用率を示してゐるが、若しこの調子で行くと、この後莫大な利用率におよぶ事は明然である。昭和三年一ケ年の羊毛消費總量は一億五千七百萬封度であるが、これだけの羊毛を得るには二千二百五十萬頭の緬羊を要するのである。處が前記の如く二萬頭そこ〱しかゐないのであるから、正に九牛の一毛にしか當らない事になる。

英國に おいては全部を自給し、更に莫大な輸出をし、米國では約半分、獨逸、佛國では八分の一乃至十分の一を自給してゐるのである。これ等と對照する時如何に我が國の緬羊飼が憐むべき狀態にあるかゞ分る。いや寧ろ恐ろしいといはねばならぬ。若し我が國に牧羊家が振はないとすれば、右の羊毛利用率に鑑みて羊毛による困難が到來すると考へられる。

農林省 では北海道に二ケ所の種羊場を設け、一般民間にも補助を與へて奬勵に努めてゐるのである。我農村においてこれを主業とするは勿論、副業としても大いに發展を願ふものである。

お正月の床を美しく飾る活花
京都古流家元　久野運峯

昔から三元と 申すことがあります、三元とは上元（正月十五日）中元（七月十五日）下元（十月十五日）の三ッで、これは陰暦でいふ事でありますが、今の陽暦にしても差支へはありません

兎に角お正月 は一年の初めの月で大變お目出度いものでありますから、これに用ひます生花でも投入花でも矢張りこれに應じて致さなければなりません。今は溫室育ちで色々の草木が得られますが、季節としては殊に陽曆では未だ冬ですからどうしても花の少い季節で隨つて余り派手やかな材料も用ひられませんし、よし用ひる事が出來たと致しましても季節として甚だ不調和に感ぜられます、お目出度い時は矢張り落ちついて趣味のある間に富ばしい愉快な感じのするやうに活けることが肝要であります。

大體の心持 は男女とも年久しく長へる意を含めて行ふべきで、花の枝は例へば月ヶ瀨の梅といつた風に昔の宿いたものとか、幾花の類とか、或は花若きに還るの意で返り咲きの花も祝して生けます、枯枝とか、散りやすい花、落ちやすい葉のあるものは用ひないやうに致します。要するに季節の花の中から殊にお目出度い縁起のよいものを用ふればよいのであります

昔から正月元旦 には松（生け方は七五三の法といつて若松を七五三に入れる）を活け又福壽草を添へ入れます。二日には竹を活け、又別に山茶花を活けてもよろしく、三日には松または水仙、十日には小松、菜の花、十一日には紅梅、十五日には松または萬年靑を生ける例があります、なほ十五日は前に申しました如く上元といつて梅、柳、椿等を生けることになつてをります。

併し右の樣に 日によつて堅苦しく生けなくてもお正月に相應しいものなればよいのであります、普通には松竹梅とか松梅千兩とか松と葉牡丹、南天に水仙、水仙或ひは寒菊などを松や梅に添へるとか致します。松は主に宮島松（二尺あまりの五葉の松即ち小松）が用ひられ又鹿島松といつて大松で苔のついたのは殊に喜ばれます。梅も苔つきがよろしいのでありますが、若梅も用ひられます千兩は果實の黄色の種類よりも、赤い種類の方がよろしいのであります。色の配合の都合もありますが、元來赤色の方がお目出度いからであります。同じ意味で南天も白實のより赤實の方が珍重されます、近頃水仙には赤色を吸ひ込ました紅色のがありますが、これはいけません、黄色もなるべく避けて白色の方がよいのであります。

右の材料の中 でも松は大體なくてはならぬ程に多くの場合用ひられてをります。『常磐なる松の綠も春くれば今一しほの色まさりけり』の意で頗るお目出度いものであります。

お正月の花は 留花に限ります。そしてその活け方は眞の花體或は行の花體がよろしうございます。大位の枝に松、梅、竹などを用ひ寒菊などを添へにすればよいのであります。松竹梅を生けます時はこれを三公の活け方と申しまして三種ともに各三歲を備へさせ、松を天位、梅を人位、竹を地位として三歲を整へるのであります、即ち松は森木の王でありますから天位とし、梅は百花に先きて咲きますゆゑ、花の王として人位より下の枝には用ひません竹は木でも草でもありませんので地位に用ひて差支へないのであります。靑葉のついた竹の筒器はなかく面白いものであります、揷をいければ松竹梅が揃ふ譯であります、又靑竹の筒器に松と梅と物の縮に梅があればその筒器に松を入れて掛物と器と材料とで松竹梅を表はして誠に興味のある事であります。

お正月料理のヴィタミン
醫學士　三枝敏

お正月の御料理は地方によつて多少は異りますが大抵は大同小異でありまして、これが大體榮養價に富んでゐることはすでに一般に認められてゐることですが、近頃やかましくいはれてゐる『ヴィタミン』はお正月の料理にどんな風に存在してゐるかを述べて見ませう

◇

まづその前に『ヴイタミン』とはどんなものかといへば吾々人間生活に必要な食物中の榮養分は蛋白質脂肪含水炭素及鹽分、水が主なるものであることは勿論でありますが、これだけでは完全に健康を保つてゆく譯には行きません、このことは昔から知られてゐたことで彼のコロンブスのアメリカ發見の頃、長い航海の途中で新しい野菜の缺乏のため、多くの病人を出した、或はまた長く籠城に圍まれて、城中に野菜等の不足のため妙な病氣が起こることにはすでに注意されてゐたことでそれが何の爲であるかはつきり分らなかつたのです

◇

また白米ばかりたべる人は脚氣にかゝりやすく、玄米牛搗米を食すればこれを豫防し得るのは誰でも知つてゐることとであります。從つて吾々が健康に生活するには前記の榮養分の外にある何物かゞ必要でなければならないといふことから研究の結果發見されたのが『ヴィタミン』であります。このヴイタミンは化學的成分は今尙不明ですが、これにA、B、C、D、E等の數種ある事は判つてきました

◇

『ヴイタミンA』は脂肪に溶け易いので脂溶性ヴイミンと言はれて一般に動物性の油脂中に多く含まれてをりますこれは長く空氣中に置けば變化し易いものですが、熱に對しては割合に强く、普通のお料理の煮炊位では變化を受けません、この動物性油脂中にはヴイタミンDもAと同時に存在してをります。

體にこのAとDが缺乏しますと結膜乾燥症といふ眼病を起し眼球の結膜は乾燥して光澤を失ひ、遂に角膜を冒して失明するに至るもので統計から見て後天性の盲目の中ではこれが第一位を占めてゐる位です又『A』『D』は若い動物の成長に最も必要なもので子供等はこれが不足すればその成長は甚だしく遲れ、佝僂病といふ骨の發育不全を來す病氣を起します。

◇

『ヴイタミンB』は主に穀物の胚子等に多く含まれてゐてこれが缺乏すると脚氣を起す事は周知の事であります。たとへばこの『ビタミンB』のない食物で動物を養へば丁度人間の脚氣と同じやうな症狀をおこしますが、これに『ヴイタミンB』を與へれば直ちに全快するのです。

◇

『ヴイタミンC』は新しい野菜や果物中にありますがこれは熱に對して頗る弱く攝氏五十度位で已に分解しはじめ百度では全く壞れて仕舞ひますからこれをお料理中に保存し得るのは生のものでない限り困難であります。これの不足は壞血病やバーロー氏病をおこします、これは前に述べた長い航海者やまた人工榮養の小兒等にしばしばくる病氣であります。

◇

さて正月の御料理中にはこのヴイタミンのどれがどんな風に含まれてゐるかといへば先づ『きんとん』『煮豆』等は材料に隱元その他の豆を用ふるからヴイタミンBが大量に含まれ『A』も少しあります、その他の野菜料理として用ひられる『ごぼう』『人參』『大根』は『B』を相當に持つてゐますし、又お雜煮の中に入れる小松菜白菜なども同樣『B』『C』を持つてゐるが、熱を加へて煮るために『C』は殆んど分解して了ひます、餅は白米の時はヴイタミンがありますが、精白される爲め白米の御飯と同樣ヴイタミンには乏しくなります。然し雜煮には中へ色々の野菜が入りますからヴイタミンを補ひ、餅の榮養價を合して理想的のものであります。

◇

昆布卷に用ふる昆布の樣な海草類はヴイタミンAを多少持つてをりますし、中味にする鰊鮒、等は又Aを含みます、殊に御料理ではないが鱈から取れる肝油がヴイタミンA、Dを多く含むものとして藥品として用ひられてゐる事は知られてゐる事です。又その他『ごまめ』『數の子』もヴイタミンAを含み、又數の子にする『こはだ』『いわし』も同樣に『A』を含みます。卵料理は卵黄がA、Bを相當に持つてをりますし豆腐を用ふる料理には大槪の『B』を含みますが乾海苔は他の榮養分は乏しいのですがヴイタミンA、Bを共に持つてゐます。

◇

お正月に用ふる果物には『リンゴ』『ミカン』『レモン』『ユズ』、だい〱等がありこれはB、Cを多量に含んでをりまして殊に果物類は大抵生のまゝ用ひられますからヴイタミンCを供給する上に大切なるものであります。またお正月の頃子供にお菓子代りに好まれる落花生は相當なヴイタミンAおよびBの持主です、即ちお正月料理は豐富な榮養價とヴイタミンA、B、Cを相當に持つてゐて料理としては理想的のものであります

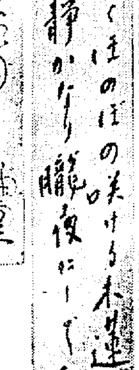
新年文藝　短歌(二)
題『新年』　尾上柴舟先生選

波のうねりの果てなき磯に　熊本縣　松本　直
羽根つくと袖をかへして處女子の囀るゝ門松朝日さすなり　元山　城田　紅夢
初春のみ光の下すこやかに命をもてり祖父と祖母は　京城　篠村　信夫
朝早し鳥居の内の白雪をさく〱とふむ宮詣かな　京城　瀬澤　雙子
つゝましき心となりて君我に酒まゐらするめでたき朝を　淸津　長柄　慶州
新玉の年の始の今朝の雪羽子つく子らの袂に散るも　京城　津郵瓢二樓
これぞこの年の始に咲く花か神のみ庭の木にかかる雪　春川　西村まさと
くだまきの爲の薬罌にゐたりしが落ちても飛げぬ蜂の弱かも　春川　同人
地に落ちて踠くともせねくだまきのいのちを思ふけさのさむさに　同人
絶望の暗きわくてにあきらめの一路見出して汝は行くかや　同人
すべてをばあきらめて汝はかへるてふそのあきらめのなんぞかなしき　同人
わが十九今しも逝くと思ひつゝ記し終れる今年の日記　仁川　市橋　務二
さしのころ月かげふみて狩人は小松の丘を今過ぎにけり　水原　路澤みゆき
春なればゆとりたき身も落ち着きて年の始のふみを見るかな　京城　吉田　玄一
年ひとつとりし喜び今朝もまた指折り告ぐる吾子のいとしさ　同人
ほのぐらきに若水を汲む新年の朝のしづけさや太古のすがた　京城　山田平一郎
雪ふかき野は紅に明りつゝ今日新しき年立にけり　平壤　西京十四郎
襟正して凍たる山の雪見つゝ明るき部屋に雜煮食ふるも　京城　澤野　久子
あらたまる年とおもへばこの年に必ず成さん事ありにけり　水原　澤田　典子
きその日のすがたに立てる山たがらけざやかに見ゆ年のあしたは　京城　海谷　雅子
高々と凧をあげつゝなごやかに惠まれし日を子等と遊ぶも　龍仁　田中　義峰
つゝがなく子等とよき日を迎へつゝたゞありがたくはつ日仰ぐも　龍仁　田中しま子
年立つと白雪すこしかゝりたる庭の杉穗のみづ〱しけれ　名古屋　安藤　銀一
しづが家の軒の氷柱にあたゝかき朝日の光けふさせるかな　熙川　崔　奎珠
ふじのねの頂いましあかねさし裾野小暗き元日の朝　寧越　竹内　繁子
新しき年の朝に逝子つれて溫泉のまちに身を落ちつけぬ　京城　岡　松靑
新たにも身づくろひして初日出はれ〱しくも拜みけるかも　京城　小島　光是
新玉の年を迎へて雜煮食す祖父母の笑顔なやみなきかた　京城　岩城　碧世
よろこびもはた悲しみも新たなり今日のこの日に何祈らまし　京城　大迫　綾子
晴々と笑ひあひつゝ友二人訪れ來つる元旦の朝　寧越　關根　綠舟
配られし年賀のはがきくり見つゝ幼なたじみの顏おもひ出づ　京城　後藤　政孝
雪とけて竹の反る音ひゞくなり年立つ今日の產土神の社　京城　逸名氏
天地の新たに廻る日と思へど子供心になりて嬉しも　忠南　鄭　俊浩
屠蘇に醉ふ人等を見つゝ幸うすく過しをる身をさびしみにけり　京城　梧　靜兒

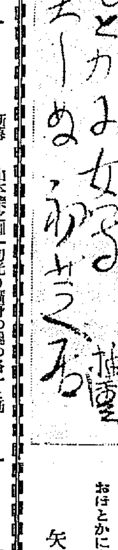
佳作

初日かげさす神山にほがら〱なく白鳥のこゑのよろしさ　京城　立間よし子
屆きたる賀狀を見つゝことせの友の動きを思ひ居るなり　福岡　砥上榮次郎
年の立つよろこび告げむ人もなし古里にわづらふ妻あるこの身　龍山　木村　瑞晃
ふくらみて二三羽雀ならび居り樹氷花咲く鳥居のほとり　釜山　逸名氏
貧しかる生計なれども正月の餅は食はむと妻にはかりき　京城　内藤　隆一
數多き賀狀選り分けてうからどちまだ見ぬ友を語る宵かな　平北　尹　京吾
商人の家に生れて正月も早や着る初賀の朝　仁川　坪井　春嗣
床の中に詫び寢しことも去年となりて笑の中に食む雜煮かな　平壤　森下　松郎
朝まだき初日をがむと立ちにけり　江原道　堀内　明水

窓近くほの〱咲ける木蓮の花靜かなり朧夜にして
南部修太郎



おほとかに女等具しぬ初芝居
矢田挿雲氏



新年文藝　俳句(二)
題『新年雜詠』　臼田亞浪先生選

金泉　山塚　一枝
發見に笑ひよる子やお齒玉
金郊　大橋　白鶴
羽突にはね上げられし歌かるた
平壤　森下　松陽
吾子の羽子つく群に交りゐる
平壤　森賀　告天子
禰宜去んで麻雀の夜の音更くる
龍山　鷲尾　幸堂
電線に揚けと羽子をつきにけり
仁川　坪井　春嗣
初日さす神苑の雪踏みにけり
元山　石田　綠溪
朝からの晴着姿や羽子をつく
京城　末益　峽南
人の後ろに襟合せたり初鏡
公州　三橋白延子
追羽子の聲門前風に募るかな
公州　上野　[illegible]鳳
高原の羊牧場の初日かな
公州　三崎　松籟
初鷄や神杉の雪明りひき
慶州　河原波津代
初日の出禊ぎの清水汲みてをり
京城　津郵瓢二樓
大江は氷とざして初日かな
釜山　月田　正兒
仰ぎ見し松の木の間の初御空
京城　吉田　玄一
初日影匂ふみあらか那かなり
釜山　福田　香房
初空に凧あげをるは家の子ぞ
京城　秋田　春夫
お元日山の日向は木の葉降り
京城　金　昌成
雪凍てし道なり羽子をついてゐる
新幕　金子　銀亭
電燈の注連が鳴りゐる夜の風
新幕　金子喜代子
日飾冷めたく夜の目にふれし
龍山　龍興　秋外
元日の道の賑さや犬遊ぶ
新幕　山本柴之園
初凪の舟の鷄聞に來る
太田　山口　雄心
詣づるや雪の社頭の初明り
京城　森坂　石火
初鴉竹山遠く凪見せて
開城　曾田　巽山
御社の雪夕べ鳩なくばかり
かる〱と若水汲みぬ雪明
東京　名取波奈子
お飾りにうつゝなき子は眠りたり
開城　横山　白亭
羽根音のしづかなる障子に坐りぬ
開城　森居　菊女
松かざり納めて風呂を焚きにけり
厚昌　西村紫洋江
かゝり羽子すべなく仰ぐ妹よ妹よ
龍山　佐藤　江月
注連貰ひ居を汚して去にけり
元山　河北　令波
萬歲の過ぎし門邊に立ちゐたり
平壤　堀内　明水
望樓の凪薄れ行く初日の出
京城　越野　島石
左義長の火に醉ひにける父の顏
京城　廣井　瓢兮
子は雪にまろびながらや初詣
長春　端武はじめ
過突や開いてをりし福壽草
初光り曙野の樒の路一と筋
咸興　清水　秋川
初凪の潮溜の深の寄する
京城　澤野　久女
初詣水を掬へば凍しつ
釜山　野口　白葩
宵の街ふと數の子を嚙みにけり
京城　鈴木　來宮
松のいき立ち昇り居りお元旦
昌城　星野かね子
雪はらひ汲む若水もくらきうち
江景　久光　茂
城門の雪がしづるゝ注連飾
釜山　美濃部末舶
飾海老夕かぜの明るくなりし
井邑　梶谷伊津子
羽子をつく隣同士の妻若く
井邑　小川　白水
初相場ラジオの前に待ちにけり
京城　松尾　衣子
水仙の影の雪ぬくき旦かな
名古屋　安藤　銀一
歌留多更て伊者は餅をやきにけり
釜山　高橋　淡水
初東風にいち早く凧揚りけり
熙川　金　明弘
暗きより人の往き交ふ大旦
論山　康　俊浩
初空やほのぼのとして星一つ

京城府本町一丁目　合資會社　山岸天佑堂

新町　春京

朝鮮火藥銃砲株式會社　京城南大門通五ノ二八

京城府旭町　はり半

賀正

京城府本町三丁目　近藤安吉　電話本局一五六二・二六二一番

京城府南米倉町二三　辻本商店　電話本局七五番

京城羅紗組合

慶尚北道土木課浦項派出所　所員一同

浦項消防組頭　田中貢

迎日水利組合　職員一同

浦項面長　下村重英

平安南道立　平壤醫院

平壤魚市場

平壤府港町　朝鮮運送株式會社　平壤支店　支店長　房宗銛五郎

平安南道寧遠郡寧遠邑内　南川俱樂部員一同

平壤府廳員一同

平壤　水曜會

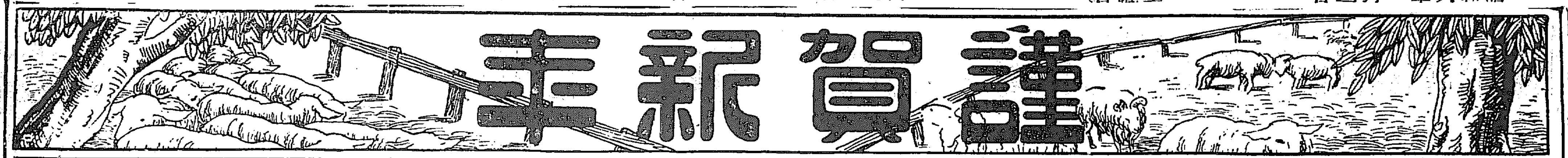
仁川米豆取引所　社長　荒井初太郎　專務取締役　秋山滿夫

仁川　力武物產株式會社　社長　力武嘉次郎

株式會社仁川米豆取引所取引員組合
○桑野健治
㊅堆浩
太新田義民
㊄金仁梧
㋮菰淵紋七
㋒内海清藏
刈竹多柳三郎
(圖)小林幹三

仁川金物商組合
池末商店　松本商店　大井廣助商店　横田商店　丹後屋商店　村谷勘一商店　村谷吉藏商店　内田英市商店　牛島嘉太郎商店　美濃谷榮次郎商店　壽秋商店

仁川敷島遊廓組合



咸興郵便局
職員一同

咸興府大和町
日活北鮮封切館
常設 咸興劇場
館主 辻平三

咸興府大和町
金物銃砲火藥 德本咸興商店
長電話一四一番

咸州郡廳
職員一同

國際通運株式會社
咸興支店

咸南道立咸興醫院長
原藤孝一

咸興旅館組合

咸興府大和町
金光正市
電話一四番

咸興府大和町
北鮮自動車運輸合資會社
長電話七四七番

咸南咸州郡
朝陽公立普通學校
職員一同

新興郡廳
職員一同

咸南下碣郵便局
咸南下碣警察署
同公立普通學校

咸南咸州郡九老里
醫師 長岡巖

咸南九老公立普通學校長
山口勘太郎

咸南新昌里公立普通學校
職員一同

咸興
建築職工組合

咸興華商々會

咸興府軍營通
笹沼寫眞館
電話一五七番

咸興驛長
岩瀨基樹

朝鮮運送咸興支店長
三木鐵治

朝鮮鐵道咸興出張所長
清田戊寅

咸州穀物組合長
貿易商 林良作
電話一五〇

咸鏡南道評議會員
井上通

咸鏡南道評議會員
咸興水利組合長
洪聖淵

咸鏡南道評議會員
咸興府協議會員
金夏涉

咸鏡南道評議會員
咸興府協議會員
松村榮三郎

咸興府協議會員
渡邊利一

咸南農會副會長
咸興府協議會員
劉柄義

咸興學校組合議員
敷根角市

咸興在鄕軍人分會長
咸興學校組合議員
土谷惟一

咸南三水警察署長
齋藤貞次
外職員一同

咸南三水郡新乫坡鎭
新乫坡林業合名會社

咸南新乫坡營林署長
杉本正夫
外職員一同

咸南好仁警察署長
市山重太郎
外職員一同

惠山鎭料理屋組合

咸南惠山鎭
木材業 高瀨敬藏

咸南甲山郡
惠山鎭營林署
職員一同

咸興府大和町三丁目
朝鮮炭業株式會社
長電話一三三番

咸南甲山警察署長
大和田勘彌
外職員一同

甲山郡廳職員一同
同農會職員一同
同畜產同業組合職員一同

咸南端川警察署長
須田平次郎
外職員一同

咸南自動車商會
小松精義
咸南新北青驛前

咸南北青警察署長
服部昇治
外職員一同

北青郡畜產同業組合

北青公立學校團

咸興驛前
株式會社 大二商會
咸興出張所
長電話四五七番

咸州郡興南面
北島秀人

咸興料理屋組合

咸興府大和町三丁目
中川自動車運輸株式會社
電話三九番

咸興府大和町三丁目
咸興タクシー株式會社
長電話一三一番

咸興府本町一丁目
玉置省一本店
長電話二二番

咸興府大和町三丁目
新興林業合資會社
長電話六四四番

三井物產咸興駐在員
三輪孝貞
長電話三三番

咸興府大和町
本町券番
電話五三九・八二二・九四三番

咸興水利組合
職員一同

咸興府西咸興驛前
三協商會咸興支店
牧野政一
長電話三二六番

咸興刑務所
職員一同

咸興府西市場內
新谷商店咸興支店
松尾昇治
電話一〇一番

咸興府大和町三丁目
帝國商事株式會社
朝鮮支部
宇野律二
電話八〇二番

咸南穀物檢查所
職員一同

咸南三水邑內
三水釀酒株式會社

咸南新乫坡學校組合管理者
横山利助

咸南新乫坡鎭
三江酒造合名會社

咸南新乫坡鎭
小林茂市郎

咸南新乫坡鎭
木材業 中根彦治郎

咸南新乫坡公民會長
鈴木隆吉

咸南新乫坡郵便局長
林田徹春

咸南好仁郵便所長
笹原伊右衛門

咸南惠山鎭消防組頭
今野德市

咸南甲山郡惠山鎭
國境拓林株式會社
電話一〇四番

惠山鎭林業株式會社
咸南甲山郡惠山鎭

咸南利原郡
遮湖港
李鐘奎
太田房藏
久保田彌一
串間定市
松井善治
足利元
崔觀鎬
木村武市
水崎繁九郎
末永嘉右衛門

共興株式會社
社長 方義錫
咸南北青邑內

端川郡廳職員一同
端川郡農會職員一同
端川郡畜產同業組合職員一同

咸南甲山郡惠山鎭
木材業 車時煥
電話一三番

咸南新乫坡鎭
醫師 關屋政吉

豐山邑內各官公署
職員一同

咸南洪原邑內各官公署
職員一同

咸南利原郡南面昌興里
利原鉄山株式會社

咸興土木建築工友會

咸興消防組
組頭 內田半十
副組頭 秋山五郎
小頭 吉本太一郎
小頭 砂野茂次郎
小頭 中原正作
小頭 清水競
小頭 全瑛述
係長 春田九太郎
係長 梶野晋市

咸南端川邑內
西原敏雄

惠山鎭學校組合管理者
杉山筏次郎

惠山鎭旅館組合

咸鏡南道立
惠山鎭醫院
職員一同

咸南甲山郡惠山鎭
惠山鎭電氣株式會社

咸南新乫坡警察署長
市山直衛
外職員一同

咸南惠山警察署長
岸川於菟松
外職員一同

北青郡廳
咸興地方法院北青支廳
北青警察署
北青營林署
良德水利組合
北青公立農業學校
北青公立普通學校
北青女子公立普通學校
北青公立尋常高等小學校
專賣局北青出張所
大和田農林部出張所
東拓北青出張所
北青郵便局
北青驛
北青面事務所

咸興府軍營通
大興電氣咸興支店
長電話一二七番

咸興府雲興里
片倉咸興製糸所
長電話一二五番

咸興府大和町三丁目
辰巳礦油株式會社出張所
長電話一三三番

咸鏡南道金融組合
聯合會々員一同

咸鏡南道廳職員一同

咸興府大和町三丁目
金物商 松下商會
長電話三〇八番

咸興公立學校團

咸興府廳職員一同

咸興警察署
職員一同

咸南道立咸興醫院
職員一同

咸興金曜會

咸興醫師會

咸興府大和町三丁目
高級飲料オミトーゼ製造元
オミトーゼ合資會社
電話四五九番

咸南利原邑內各官公署

定平邑內各官公署
定平郡公立各學校

三水郡廳職員一同
三水郡農會職員一同
三水郡畜產同業組合職員一同

華やかな颱風【85】

福田正夫作　野崎貞雄畫

散り行く花（九）

清彦はウヰスキーのグラスが目の前に置かれると、靜かにそれを取り上げて唇をつけた。が、それは何となく無意識に動く手のやうな手つきだつた。

ユリヤは立つたまゝ清彦の姿をなつかしさうに見守つて居た。然し、何時まで經つても清彦が彼女の方へ注意を向けないのを知るとやがて清彦の身體にくつつかんばかりに傍近く腰掛けながら、彼女は少し鼻にかゝつた甘つたるい聲で言つた。

『随分しばらくでございましたわね』

その聲に應じて清彦は彼女の方へ顔を振り向けた。然し、彼は相手が誰であるかを直ぐには思ひ出せないらしく、不審さうな目付でユリヤの美しい顔を見まもつた。

『………』

『私、お判りになりません?』

ユリヤは蠱惑的な微笑の影を浮べた瞳で清彦の眼を見返しながら言葉を續けた。

『さあ。どなたでしたかね』

『あら、そんなに收まつて仰有られると厭ですわ』

『僕、思ひ出せないんですが……』

『いつか、あなたのお店で捕まつたことのある女ですわ』

『僕の店で?』

『えゝ。ほら、私が洋傘のひだの中へ指輪を入れたりして……』

『あゝ、あの時の……』

『お判りになつて?』

『やつと思ひ出しましたよ』

清彦はさう言ふと同時にあの時の悩ましかつた心持をも思ひ出した。そして、洋服について居た白粉の痕も……。

『私、随分變つたでせう』

ユリヤはさう言ひながら、もう一度美しい眼で清彦の眼を見た。清彦はその美しいユリヤの眼を眩しさうに避けながら、流石に心の亂れるのを感じないではゐられなかつた。そして、それを押し隠さうとするやうに、彼は

『ねえ。』

と簡單に答へながら、急に思ひ出したやうにポケットから巻煙草入を取り出すと、巻煙草の一本を口にくはへた。それを見ると、ユリヤは器用な手付きで早速マッチを擦つて清彦の煙草に火をつけた。そのマッチの火をふッと吹き消すや否や、彼女は幾分慎み深く

『私にも一本下さらない?』

と言つた。

清彦は默つてシガレットケースをユリヤに渡した。ユリヤはそれを受け取ると、矢張り默つて巻煙草の一本を取り出して火をつけた。そして、さもうまさうに深く〱煙を吸ひ込んだが、その時清彦が再びウヰスキーの杯を取り上げやうとするのを見て、彼女は慌てゝその手を押さへた。

清彦はユリヤに手を押さへられて杯を元の位置へ返しながらも、不審さうにユリヤの眼を見返した。ユリヤはそれを見ると溜めてゐた煙草の煙を慌てゝ吐き出しながら言つた。

『召し上つちやいけませんわ』

『どうして?』

『だつて、あなたのはほんとに召し上りたいお酒ぢやないんですもの』

『………』

『ね、さうでせう? それ位のこと見てをれば解るわ』

『………』

『召し上りたくもないお酒を上がるのは毒ですわ』

『………』

何といつても清彦は返事をしなかつた。彼とても決してのみたい酒ではなかつた。然し飲まずにはおられない………。そこに彼の悩みがあつた。そして彼は遂にそのなやみを吐き出すかのやうにいつた。

『だが、僕はさびしいんだ』

『ぢや、私が代りにのんで上げるわ』

ユリヤはさう言つたかと思ふと清彦の手からグラスを奪ひ取るやうにして残つて居る酒を一息に飲みほした。

『………』

清彦は何が何だか解らない氣持でユリヤを見まもるだけだつた。

『ね、私が代りに飲んで上げればそれでいゝでせう? その代り私、あなたの淋しさを慰めて上げるわね、ですから私に約束して下さらない? これから毎晩來て下さるつてことを………』

『………』

『いけない? 私だつて淋しいんですもの……。ね、來て下さる?』

『あゝ』

『ほんと? まあ嬉しい! ほんとに來て下さるわね?』

『あゝほんとだとも』

清彦は深くうなづいた……。

新年文藝　童謠

題『隨意』　本社編輯局選

入選二十篇（完）

學校歸り
府内櫻井小學校尋六　津村純弘

學校歸りの歸へり途
いつもの道を通る時
ちらりとのぞくショーウンド
すゝけた顔したお人形
あせたべゝきてならんでる
かつて望んだ寫眞機も
今はほこりにつゝまれて
誰れも買手がなさそうだ
いつになつたら賣れるだらう
僕が大きくなるまでは
人形も、まりも待つてゐな

すずむしのこゑ
慶北龍城公普校第三學年　崔瀚武

くらいやみ夜にすず虫の聲
ちんちろりんちろ〱ちんちろりん
うつくしい聲でないてゐる
氣持よくないてゐる
心持よくないてゐる
ほんとうに
うつくしいすゞ虫の聲

お星
慶北龍城公普校第三學年　全澤根

きら〱〱とみ空のお星
あちらもこちらもみ空のお星
寒い光できら〱お星
かぞへきれないみ空のお星
冬のみ空で寒むからう
大きなお星は王様お星
小さなお星はけらいのお星
遠い昔からきら〱お星
今は〱老人だらう

一本橋
京城公立小學校第六學年　竹内博毅

一本橋こはいな
上見りや青空
下見りやお水が
チヨロチヨロと
姉さま先にはいな
一本橋こはいで
カッコをぬいで
みんなでそろ〱渡りませう
落ちないやうに渡りませう

ほたる
龍城公普校第三學年　全孝根

ほたる〱何處へ行く
暗い夜だと燈つけて
何處へ行く
水がほしくてお飲みに出たか
友が見たくて遊びに出たか
ほたる〱何處へ行く
暗い道だと燈つけて
何處へ行く
親がないのでさがしに出たか
僕が來るのを迎ひに出たか

街燈
忠南論山魯城公普五年　鄭昌漢

僕を迎へる門の電燈
何時もあきずにピカ〱と
人の通らぬ夜中でも
なまけず道をピカ〱と
眠くないのか電燈さん
寒くないのか電燈さん
あなたの友達は虫ばかり
何時も仲良く遊んでゐる

かゝし
忠南魯城公普校六年　金弘來

弓を片手に一本足のかゝしさん
寒くないのか水の中で
何時も一人でしよんぼりと
淋しくないのかゝしさん
あなたの弓は丈夫さう
僕に一度貸してくれ
僕が雀を射つてやるよ

たこ
京三浦公立小學校二年　近藤哲也

たこくんかれ木にひつかかり
きものがやぶれてないてたら
からすがかあかあわらつてた

空のお姫様
平壌公立小學校四年　森賀彌生

一、きらきらきらと夜になると
みんなのかほをのぞきます
あなたのお國はどこですの
遠いお空のお姫様
二、かむりの玉がきら〱と
空のお姫様大勢で
からすの御殿でうたつてる
お星様ほんとにきれいね

冬
安岳公普校五西　來在守

北風ヒユウ〱
電信柱が泣いてゐる
辻で
子供がないてゐる

おしやかさま
南大門小學校四學年　松原弘

机の上のおしやかさま
毎日〱手をひろげ
じつと僕を見つめてる
悪いことをしたのかしら
よいことをしたのかしら
そう〱そうだ
わすれてた
先生に出す
作文をわすれてた

東亞俱樂部（東亞直營）
三日封切三日間上映　新春第二回超特別興行　暖房裝置完備寒さを知らずの當館の誇り……
御入場料　階上席大人四十錢　小人學生二十錢　階下席大人三十錢　小人學生二十錢
東亞キネマ超々特作　映畫の最高特作　**薩摩歌**
助演　原駒子
少年ロビンソン　ウイル・ウオーリング氏　トム・サンチ氏　グロリア・グレイ嬢　トード・ダリロウ氏
文明から遠く離れた島に漂流した少年の冒險……

京龍館（東亞キネマ　錦兵町）
卅一日より三日間上映　正月特別興行
東亞キネマ超特作　原駒子　光岡龍三郎　主演
時代劇　**武俠闘東嵐**
現代劇　**スポーツ女房**　上村節子　日向嗣之助　平塚泰子　共演
東亞特作現代劇

朝日座（本町五丁目　電話本局三三六八番）
一月元旦より當る三日まで　晝夜二回　新春特別大興行
時田一瓢　外四十五名
特等一圓五十錢　一等一圓　二等小人學生各等半額

大正館
卅一日封切　三十一日　一九三一年の新春特別大興行
松竹キネマ特作　佐々木太郎撮影
海の王者（ハリケン）
清水の小政

喜樂館（日活直營）
卅一日封切　新春超特別大興行
日活超特作　**戀模樣**　全八巻
十四郎御用篇　全十巻

中央館（マキノ　帝キネ）
四日より超特別大興行
スピードウエイ　全十巻

浪花館
昭和六年元旦より
藤間靜子一行

謹賀新年

西大門郵便局　職員一同

本町二丁目　石川物産商會　電話本局一八八四番

本町二丁目　江戸川　電話本局九二一四六番

京城驛前　西洋料理土産物　長野忠左衛門　電話本局二四一九番

京城府本町二丁目　林田金次郎　電話本局六五番

景元凉　遞信局電氣課分室

近澤建藏

京城府旭町一丁目　燒栗元祖　玄武堂　電話本局一八五二番

京城南大門通三丁目二八　和洋紙文房具活版印刷　大家商店　電話本局四七番

京城府本町二丁目　石川辰次郎　電話本局一二八七番

京城府永樂町二丁目　カフエー　バロン　電話本局二六九二番

京城本町一丁目　黒川精肉店　電話本局九四六番

京城府本町二丁目十八番地　ますや呉服店　電話本局四八二番

京城府長谷川町五八　後藤豊藏

京城府本町二　木島時計店　木島眞

津田常男

堀淳一

密陽驛前　木炭御酒　谷口俊吉

上南公立普通學校　吉川浩一

加藤時義

密陽城内　島津英一

密陽郡廳　崔斗淵

慶南道密陽運送店　慶南合同自動車株式會社

橋口康

三浪津金融組合

密陽郡三浪津　野田大三郎

密陽驛前　館石貞雄

慶南道密陽郡密陽面驛谷里　戸田常吉　電話百十番

慶北淸谷郡邑　道評議員　入山昇

慶山郡廳職員一同

慶尚北道果物同業組合

大邱無盡株式會社

大邱商工會議所

大邱東門町　酒類釀造業　片木屋酒店　電話五五一番

大邱東城町　黑木吉郎

大邱驛前　米力自動車

請負業　東組々員一同

慶尚北道原料糖製造所　北澤茂

慶尚北道種苗場　宮田修次

大邱東雲町　樂山醫院　院長　崔日文

大邱東雲町　前田醫院

大邱卸商組合　大邱商工會議所内

大邱東城町　金物家具一式　林辰商店

大邱南龍岡町　一二三酒場

大邱府田町　岡部電氣商會　電話八六二番

慶北金泉郡廳一同

慶北安東戊辰會

大邱府　公立初等學校職員一同

慶北尚州米穀組合

密陽印刷株式會社　木脇一雄

密陽郡醫師會

密陽城内　朝日劇場

密陽郡職員一同

慶南密陽郡守山　片倉米穀肥料株式會社　守山出張所　電話五番

下南水利組合

蔚山郡廳職員一同

慶尚北道金融組合聯合會

共榮自動車株式會社

達城郡守　申鉉求

密陽料理屋組合

密陽郡府北公立普通學校　垂水秀男

府北公立普通學校　外山忠夫

密陽警察署　署員一同

密陽城内　合資會社　密陽銀行

密陽面職員一同

丹場面事務所

丹山金融組合

九川酒造場　宋斗瓚　宋永瓚

三浪津公普校長　浪田芳榮

密陽驛前　生果問屋　岩北商會　岩澤熊四郎　北村隆

大日本製糖株式會社　朝鮮支店　朝鮮平壌府船橋里

密陽郡密陽面駕谷洞六百八番地　密陽財興株式會社　電話八番　振替京城九〇七九番

平壌　原田貞輔

平壌　朝鮮名菓製造元　下江黄金堂　電話三〇三

大同郡農會長

順川警察署

僚友會

价川　十五日會員一同

价川鐵道株式會社

江東邑内官公署一同

平壌府大同門通り　平壌松茵石油製組合

平壌府大和町　十字屋洋品店　電話七三五番

平南道廳食堂

小野田セメント製造株式會社　平壌支社

山十製絲株式會社平壌製絲所　平壌府平川里